

平成 2 9 年 第 1 回 長 南 町 議 会 定 例 会

議 事 日 程 (第 2 号)

平成 2 9 年 3 月 2 日 (木曜日) 午前 1 0 時開議

日程第 1 一般質問

本日の会議に付した事件

議事日程に同じ

出席議員 (1 3 名)

1 番	岩	瀬	康	陽	君	2 番	御	園	生	明	君	
3 番	松	野	唱	平	君	4 番	河	野	康	二	郎	君
5 番	森	川	剛	典	君	6 番	大	倉	正	幸	君	
7 番	板	倉	正	勝	君	8 番	左		一	郎	君	
9 番	加	藤	喜	男	君	1 0 番	仁	茂	田	健	一	君
1 1 番	丸	島	な	か	君	1 2 番	和	田	和	夫	君	
1 4 番	松	崎	剛	忠	君							

欠席議員 (なし)

地方自治法第 1 2 1 条の規定により説明のため出席した者の職氏名

町	長	平	野	貞	夫	君	副	町	長	麻	生	由	雄	君							
教	育	長	小	高	憲	二	君	会	計	管	理	者	常	泉	秀	雄	君				
総	務	課	長	田	邊	功	一	君	企	画	政	策	課	長	田	中	英	司	君		
財	政	課	長	土	橋	博	美	君	税	務	住	民	課	長	仁	茂	田	宏	子	君	
保	健	福	祉	課	長	荒	井	清	志	君	産	業	振	興	課	長	岩	崎	彰	君	
農	地	保	全	課	長	松	坂	和	俊	君	建	設	環	境	課	長	唐	鎌	伸	康	君
ガ	ス	課	長	大	杉		孝	君	学	校	教	育	課	長	永	野	真	仁	君		
学	校	教	育	課	主	幹	浅	生	博	之	君	給	食	所	長	中	村	義	貞	君	
生	涯	学	習	課	長	岩	崎	利	之	君											

職務のため出席した者の職氏名

事	務	局	長	大	塚	孝	一	書	記	鈴	木	直	幸
書				記	片	岡	勤						

◎開議の宣告

○議長（板倉正勝君） 皆さん、おはようございます。

ただいまから、平成29年第1回長南町議会定例会第2日目の会議を開きます。

（午前10時00分）

◎議事日程の報告

○議長（板倉正勝君） 本日の日程はお手元に配付したとおりです。

◎一般質問

○議長（板倉正勝君） 日程第1、一般質問を行います。

一般質問に当たり、質問者及び答弁者は要旨を整理され、簡潔に述べられますようお願いいたします。また、通告以外のことは答弁されませんので、ご了承願います。

今定例会の一般質問通告者は6人です。質問順位は、通告順に1番から6番までとします。

念のため、内容についてここで確認します。質問者は質問席に移動し、要旨ごとに質問し、答弁者は自席で答弁します。質問回数の制限はございませんが、一度完結した質問事項は再度質問できません。制限時間は原則1人1時間以内とします。

以上です。

◇ 加 藤 喜 男 君

○議長（板倉正勝君） 通告順に発言を許します。

初めに、9番、加藤喜男君。

〔9番 加藤喜男君質問席〕

○9番（加藤喜男君） おはようございます。

9番の加藤でございます。議長のお許しをいただきましたので、質問をさせていただきます。

いよいよこの4月から統合小学校が始まります。私はかねてより、歴史と文化と伝統を守り、国を守ることができる日本人をつくるのが教育の目的であるというふうに考えておるところでございます。

近年は、人間関係の摩擦を経験せず、一度トラブルがありますと人間関係だけでなく何事にも自信をなくす若者がふえている状況にあるようです。教育で大切なことはやれば必ずできるという経験を植えつけることです。そのためには、算数と漢字、国語を徹底的に教える、または仕込むということが重要です。ここでつまずきますと、坂道を転がるように勉強が苦手になっていきます。また、この2つをたたき込めば自分自身で勉強ができるわけで、小学校での英語の教育などは三の次ではないのかというふうに思います。英語教育に注力をする前に、初等教育では国語と算数の時間数をふやし、なおかつ国語、算数は専科の先生を配置してもいいのではないかなというふうに思っています。

本町では既に漢字検定に取り組んでおり、その成果を期待したいところでございますが、町長は昨日の施政

方針で学力と人づくりの教育を進めるというお話をされました。総合教育会議等の場を大いに活用していただいて、教育に取り組んでいただければ幸いです。

初めの質問ですが、小学校でのＩＣＴ教育についてということについて伺います。質問の趣旨でございますが、タブレットパソコンや電子黒板、電子教科書等を活用したＩＣＴ教育が学力の向上に結びつくのかというところでございます。

ＩＣＴ教育につきましては、過去に何度もお聞きしておりますが、来年度が全児童へのＩＣＴ教育元年でありますので、再度伺うものでございます。本町では、西小学校の７年間の実績及び成果を踏まえ、１億円を投じ４月より全児童にタブレット端末を与えた先進教育に取り組むわけです。政府は２０２０年までに１人１台まで普及させようとしているようですが、いろいろ調べてみますとＩＣＴ教育では教員の役割が少しずつ変わり、勉強を教える立場から勉強をサポートするという立場に変わっていくのかなと。機械に任せられることは機械に任せ、別の角度から教育をするというようなもののようにでございます。

ＩＣＴ教育の先進国である韓国では弊害も出てきておるようで、韓国では日本よりも四、五年早くＩＣＴ教育を開始したようで、タブレット端末やデジタル教科書を導入したわけですが、その結果、学力に目立った成果があらわれていない。資料を検索すると簡単に結果が出てくるために問題の解決能力が落ちる。読書量が減る。能動的に学ぶ姿勢、自分から学ぼうという姿勢が失われるなどの弊害が指摘され、デジタル教科書開発の縮小化などが韓国内で進んでいると、これは富士通総研の教育分野における先進的なＩＣＴ教育活動方策に関する調査研究というレポートがございまして、ここでも報告されています。

ＩＣＴ教育の導入により、教師と児童・生徒の間のコミュニケーションや生徒同士での学習内容の共有などがより容易に行われるようになり、手段の幅も広がり、ＩＣＴ教育が生徒の主体的な学習活動への参加や学習意欲、思考力、判断力などの向上につながることも期待されると思うわけですが、ＩＣＴ教育の今後やっていく効果及び成果をどのような方法で評価をしていこうとしているのか、１番目の質問としてお伺いをいたしたいと思います。

○議長（板倉正勝君） ただいまの質問に対して答弁を求めます。

教育長、小高憲二君。

○教育長（小高憲二君） ＩＣＴ教育の評価ということでございますが、私は今、西小の研究から、次の４点から総括評価をしているところでございます。

その第１点は、西小研究は子供の将来を見据えた価値ある研究であるということでございます。今後さらに加速化する情報化社会に生きる子供たちにとって、情報活用能力を身につけて送り出すことは、今の教師に必要な責務であるとの共通認識に立った研究で、教育の適時性という点からはとてもマッチした価値ある研究だというふうに考えます。

２点目が、県下に誇り得る先駆的な実践であるということでございます。来るべき情報化社会を見越して県下をリードする先駆的な導入と継続的な研究に意義があると考えます。

３点目でございますが、すばらしい団結の教師、職員集団による真摯な実践であるということでございます。子供たちには集中力、コミュニケーション能力、学習意欲の育成を、教師には授業技術の改善向上がよい子供を育てるとの熱い信念のもと、日々研さんに励み、努力していただきました。教育研究の難しさはその継続性

にあるわけですが、西小の先生方は真摯に一生懸命活用し、研究してくれました。

4 点目でございますが、他地域に誇る特色ある長南町教育の実践であるということでございます。学校経営のポイントは職員をどう組織化するか、どう活性化させるかでございます。それを可能にするには、子供を慈しみ大切に思う職員集団をどうつくるかが経営者の力量と考えます。ICT という小さな小箱を子供に与え、その無限の可能性の世界に子供たちをいざなってくれた、このような恵まれた教育環境をつくり、意欲化を図ってもらった西小の子供たちの幸せを思っておるところでございます。そういう中に、ICT 教育の成果、あるいは今後というものが期待されるというふうに考えております。

○議長（板倉正勝君） 9 番、加藤喜男君。

○9 番（加藤喜男君） なかなか難しいわけでございますけれども、今お聞きしますと、また後でもちょっと聞くんですが、先進的に先駆的な授業を長南町は今後やっていくということでありますから、ほかの町村ではまだそう進んでいないということだと思います。そうすれば、先に進んだ状況の学力とまだやっていないところの学力というのは、何らかによって比較できるのではないかと思うんですね。そこを期待しておるわけで、今回も2,000万円の予算がございしますが、何かその費用に相当する効果が何かうまくあらわしていただければということをおっしゃるところでございますので、こうなると、ほかとはこう違っているよというような評価をいい指標を見つけていただいて、またお示しいただければと、すぐ結果が出てくとは思いませんけれども、また来年、再来年ということで続けていったときに、本町はこういうふうに学力が上がっているというようなことを期待するわけですから、それを示していただくような方向で研究をしていただきたいというふうに思います。

それでは、次に、国も日本中を前に機械を配置したいということをおっしゃっているようですが、近隣の市町村で、郡内、県内かな、どういう状況に本町があるか、ほかどうなっているか、ちょっとその辺がわかれば聞きます。

○議長（板倉正勝君） ただいまの質問に対して答弁を求めます。

学校教育課長、永野真仁君。

○学校教育課長（永野真仁君） ただいまの加藤議員のご質問でございますが、近隣市町村の取り組み状況ということでございますが、取り組み状況、つまりは整備状況ということで比例するのかなということで考えますので、文科省が一番近いところで27年度の調査結果というものが手元でございますので、こちらの報告をさせていただきます。

まず初めに、千葉県内54市町村の状況でございますが、教育用コンピューターの充足状況についてということで数値化されたデータがございます。これは、コンピューター1台当たりの児童・生徒数というふうになりますので、値が小さければ小さいほど充足率が高いというふうにご理解をいただければと思います。

近隣の状況でございますが、まず初めに本町でございます。長南町は、1.2ということで、県内で1位であります。茂原市7.9で41位、一宮町が3.3で6位、睦沢町が4.7で16位、長生村が5.3で22位、白子町が3.5で8位、長柄町が3.1で4位、山武のほうですが、東金市が4.7で14位、山武市が2.1で3位というようになっております。最近の動向では、一宮町が近々整備をさらに進めるということで情報が入っております。

また、全国でございますが、全国平均では7.0と、これは小学校になるんですが7.0です。千葉県全体でありますと小学校は8.0ということで、47都道府県中42位の段階です。全国平均、中学校が6.9です。千葉県は中学

校6.2ということで、全国平均を少し上回る状況です。47都道府県中38位の整備率ということでもあります。県のほうは全国平均を下回り、まだ少々整備が遅れているというような状況にあるかと思います。

以上でございます。

○議長（板倉正勝君） 9番、加藤喜男君。

○9番（加藤喜男君） ありがとうございます。

私の質問の真意といいますのは、タブレットパソコンを使って本町が今年から始めるような状況にもう既にやっているというか、それがどのくらいかなということで聞きたかったんですが、郡内では一宮がもうすぐ始めるということぐらいでよろしいのでしょうか。

○議長（板倉正勝君） ただいまの質問に対して答弁を求めます。

学校教育課長、永野真仁君。

○学校教育課長（永野真仁君） 今おっしゃるとおりでございます。

一宮町が一番近いところで、もう再来年にはというようなことで聞いております。

以上でございます。

○議長（板倉正勝君） 9番、加藤喜男君。

○9番（加藤喜男君） ありがとうございます。

次に移ります。

タブレットパソコンを導入していきますと、いろいろな新しいスキルが必要になるわけですが、そういう今回の異動で教員の方々もそれなりの人を教育長もお集めになるんだろうとは思いますが、いろいろなスキルが必要になるということで、どのように教員のスキルアップをしていくのかということでお考えがあればお聞かせください。

○議長（板倉正勝君） ただいまの質問に対して答弁を求めます。

学校教育課長、永野真仁君。

○学校教育課長（永野真仁君） 教職員のスキルアップということでございますが、教員が一定水準の技能をもっていないとやはり子供に対する指導というのはできないというふうに考えております。ここが一番懸念される部分であります。本町では、西小学校が積み重ねてきておりますし、そこで培った技術、また知識といったものはこの実践力を統合校の中でリーダー的に生かしてもらいたいということで考えております。

また、統合に向けてはほかの3校もこれまでに研修を積んできました。また、リース契約になるわけですが、このリース契約の中には教職員向けの研修の講師、それから授業のサポート、パソコンのトラブルに対する対処等もできるような、そういった人材の派遣も含まれております。週1回程度になろうかと思いますが、こういった方々を活用する中でスキルアップを図っていきたいというふうに考えておるところでございます。

以上です。

○議長（板倉正勝君） 9番、加藤喜男君。

西小から何名か呼んでくるということがあるんですかね。指導員というのは、これはICT指導員というような感じで載ってたりするんですけれども、その感じでよろしいのかなと思っています。これは契約の中に取り込んでであるということで、別に追加で採用というかお願いするわけではないということも了解をいたしました。

た。

いずれにしても、高額のお金を使いまして郡内、県内でもトップの設備を有するわけでありますから、今課長がおっしゃったとおり、あとは指導者の問題だということでしょうから、宝の持ち腐れにならないように、ひとつ今後ともよろしく願いをして、この関係の質問は終わります。

続いて、野見金公園についてということで4点ほどお聞きするつもりでおりますので、よろしくお願いします。

質問の趣旨につきましては、野見金公園にいろいろ建設することで町が活性化されるのかというようなところでございます。本件は本年度の事業でありまして、議会も町の活性化を願い承認をしておるところでございます。4点ほどお聞きをいたします。

1点目が、野見金公園に休憩所、カフェの建設を進めておりますが、付帯工事も含めた工事の内容、進捗状況、休憩所は委託と聞いておりますが、概要及び今現在で来店の予想、見込みをどのぐらいというふう考えているのか。また、来園者の増加対策はどのような戦略を練っておるのかお聞かせ願いたいと思います。

○議長（板倉正勝君） ただいまの質問に対して答弁を求めます。

産業振興課長、岩崎 彰君。

○産業振興課長（岩崎 彰君） それでは、私のほうから答弁をさせていただきます。

野見金公園の休憩所の建設についてでございます。最初に工事の概要でございますが、休憩所は木造1階建てで間取りは休憩室、厨房、それからトイレが1室となっております。建築の面積は39.75平米、約12坪でございます。建物の附属施設といたしまして、テラスを設け、樹脂製のウッドデッキを張るということで44平米の施工をする設計となっております。建物の工事の施工業者でございますが、長南町須田の有限会社ニチタケ建設でございます。進捗状況は2月末時点で約70%となっております。年度末、この3月末の完成の工期となっております。

休憩所の運営についてでございますけれども、公募により事業者を募ることといたしまして、出店希望者への説明会を開催したところでございます。6事業者の参加がございました。その後、事業者から営業プランなどを記載した出店申し込みが2の事業者からありまして、審査採点を行い、1事業者を選定し、内定の通知をさせていただいているところでございます。施設は貸し付けをして運営していただくこととなりますが、貸し付けの期間は3年間を予定し、その後更新できるものとし、店舗に係る光熱水費等は事業者が負担していただくこととしております。今後、長南町ふるさとふれあい公園の設置及び管理に関する条例の一部改正を今議会に提案させていただいておりますので、この条例改正の議決をいただいた後に正式な事業者決定通知を行うこととしていただいております。

続いて、来店予定者の見込みについてでございますけれども、内定した事業者の収支計画によりまして、週末に営業した場合の通常の来場者と町のイベント、事業者自らが行うイベント、計年間6回、それによりまして年間1,700人を見込んでいるという計画でございます。

続いて、来園者の増加対策でございますけれども、町としては町観光協会、中房総観光推進ネットワーク協議会、長生地域観光連盟、それぞれが作成しております観光パンフレットに掲載をする。さらに地域の情報誌等へ投稿して掲載していただく。このように広く周知を図りたいと考えております。また、さらに新年度にお

いて予算をお願いしておりますけれども、県の補助事業を受けまして野見金公園までの誘導案内看板を国道409号線沿線や野見金までの町道に数枚設置いたしまして来園者への利便性を高めるとともに、公園の知名度アップを図っていきたいと考えております。

以上です。

○議長（板倉正勝君） 9番、加藤喜男君。

○9番（加藤喜男君） ご丁寧な回答ありがとうございました。

ほぼよくわかったわけでございますけれども、結局人が来てくれないといけないということでございまして、PR活動も大事でございます。過去にその一環として申したことがあるんですが、今の時代ですから通信手段を使って現場の状況等をインターネットで常時動画で配信するとか、そういうこともまたPRの一環としてどうか考えておいていただければと思うわけでございます。

次に、2つ目でございますが、多額の資金による整備でございますけれども、工事の工種ごとに、契約者、金額、発注方法がもしお示しできればちょっと聞かせ願いたいと思います。

○議長（板倉正勝君） ただいまの質問に対して答弁を求めます。

産業振興課長、岩崎 彰君。

○産業振興課長（岩崎 彰君） それでは、工事の発注の関係でございます。工種ごとに建築、管工事、土木工事の3件でいずれも指名競争入札による執行をさせていただきました。

契約の状況でございますけれども、休憩所と公衆用トイレ、建物の建築工事は2棟あわせた合併工事として建築工事業者9社を指名いたしまして、落札業者は長南町須田の有限会社ニチタケ建設でございます。契約金額は税込3,831万8,400円となっております。

2件目の発注ですけれども、それは主に水道施設の給排水設備整備工事として管工事業者7社を指名いたしまして、落札業者は長南町報恩寺の有限会社三起、契約金額は1,011万9,600円でございます。

3件目の発注ですけれども、園路の整備工事といたしまして、休憩所までの坂道の部分、それから公衆用トイレまでのアプローチといたしまして、いずれもインターロッキングブロックで舗装を施工する計画でございます。土木工事業者7社を指名いたしまして、落札業者は長南町長南の株式会社荒井工務店、契約金額は338万400円となっております。

以上のとおりでございます。

○議長（板倉正勝君） 9番、加藤喜男君。

○9番（加藤喜男君） ありがとうございました。

工事のメインは建屋の関係で3,831万円ということだろうと思います。ほか付帯工事が2件ということで、この3,800万円ぐらいの工事で指名業者9社というのは、これは妥当な数なんですか。それとも、ちょっと多目に指名してみたということでもいいんでしょうか。

○議長（板倉正勝君） ただいまの質問に対して答弁を求めます。

産業振興課長、岩崎 彰君。

○産業振興課長（岩崎 彰君） ただいまのご質問ですけれども、9社が妥当かということでございますけれども、町の指名業者選定基準がございまして、3,000万円以上5,000万円未満は8社以上となっておりますので、

9社ということで妥当であると考えます。

○議長（板倉正勝君） 9番、加藤喜男君。

○9番（加藤喜男君） 了解しました。

8社ですけれども9社指名したということで、そのうちのニチタケ建設が落札したといえますか。この残り8社はどのような業者だったかというのはお聞かせいただけますか。

○議長（板倉正勝君） ただいまの質問に対して答弁を求めます。

産業振興課長、岩崎 彰君。

○産業振興課長（岩崎 彰君） 9社の指名業者名でございますけれども、まず一宮町の片岡工業、それから茂原市の日伸建設、同じく茂原市の緑川組、一宮町の東日総業、茂原市の神明建設、茂原市の三枝組、長南町になりますけれども大倉建築、左工務店、ニチタケ建設でございます。

以上です。

○議長（板倉正勝君） 9番、加藤喜男君。

○9番（加藤喜男君） わかりました。ニチタケさんというのは余り聞かなかったんですけれども、これは初めての指名でしたか。

○議長（板倉正勝君） ただいまの質問に対して答弁を求めます。

産業振興課長、岩崎 彰君。

○産業振興課長（岩崎 彰君） 指名のほうは今まで2回ほどございます。

○議長（板倉正勝君） 9番、加藤喜男君。

○9番（加藤喜男君） ありがとうございます。

では、次にいきますので、よろしくお願いします。

この公園は桜やアジサイを基調として、あと展望を楽しむ公園であると思います。そこで定期的な草刈りや植栽物の剪定、肥料の施肥等の管理が必要なわけですが、管理内容や費用がどの程度かということをお聞かせ願いたいと思います。

○議長（板倉正勝君） ただいまの質問に対して答弁を求めます。

産業振興課長、岩崎 彰君。

○産業振興課長（岩崎 彰君） ただいまのご質問、野見金公園の管理についてでございます。公園の定期的な維持管理については、町のシルバー人材センターに委託して、年間8回程度の草刈り管理、それからアジサイの開花後の剪定等を中心に行っているところでございます。桜の維持管理については、植木業者に委託して、てんぐ巣病枝の剪定、またその切り口には防腐剤の処理の作業を行っていただいているところでございます。

また、施肥については、育成状況が思わしくない桜の木や追加で植栽した若木に、また梅の木についても多くの木で発育が悪いことから、春先にシルバー人材センターへ公園管理委託した業務の中で施肥の作業を実施していただいているところでございます。

費用については、町予算の観光費の中の委託料から支出させていただいておりますけれども、野見金公園の維持管理に関する支出は今年度約300万円を見込んでおります。

以上です。

○議長（板倉正勝君） 9番、加藤喜男君。

○9番（加藤喜男君） ありがとうございます。

こういう花木をメインとした公園ですから、この花木がきれいになれば宣伝しなくても人は集まってくると
思います。年間300万円を使っているいろいろなやっていると、大変だというふうに思います。

一つの案としましては、シルバーさんをお願いしているということでございますが、専任の山守とは言い
ませんが、そういう方を1人でも指名でもして、週に1回とか何か見回ってもらうとかいうことも一つのきれい
にしていくことかなということで思いますので、またご検討いただければと思います。

それで、アジサイの開花後の剪定をしておるということで、これは必要なことなんですが、剪定の時期はち
よっと間違えますと来年花が咲かなかったりとかいろいろなことが出てきますので、花が咲いたら、もう終わ
ったらすぐ剪定しちゃうというようなことで、ただバリカンで切ればよいというわけじゃないので、次の出る
芽をよく考えながら剪定していきませんと来年花が咲かないということにもなりますので、その辺の知識をあ
る方を1名でも何か専従で雇って、毎日とはいいませんけれども、たまに週1回ぐらい行って管理してもら
うというのもどうかということ、ひとつまたご検討をお願いしたいと思います。

次に移ります。最後ですが、今年の1月にちょっと通ってみましたところ、想像以上にイノシシが暴れてい
ると。下の2段目の大きい開きなどは何かやったのかなと思ってよく見たら、イノシシが全部開墾してあると
いうようなことで、これは困ったなということで思いました。植栽物への影響は、来園者への安全も心配され
ます。その辺の対策、何かお考えであるかお聞きしたいと思います。

○議長（板倉正勝君） ただいまの質問に対して答弁を求めます。

産業振興課長、岩崎 彰君。

○産業振興課長（岩崎 彰君） 野見金公園のイノシシの被害の対策はということでございます。野見金公園の
イノシシの被害の状況でございますけれども、数年前からアジサイ園の中で掘り起こしの被害が発生しまして、
それから始まりまして、今年の秋ごろにはイベントを開催している広場、その周辺にも掘り起こしの被害が発
生しまして、その被害の中には、アジサイの根元を掘り起こされまして数本倒れてしまう、そういうアジサイ
も見られるようになってきているところです。現在では公園内に余りにも多くの被害があるために、現在の場
所にやむを得ず、一時的でありますけれども、箱わなを今設置している状況でございます。また、公園以外の
周囲の山林にもくくりわなや箱わなの設置がされているところです。

今後のイノシシの被害の対策案といたしましては、侵入防止として金網柵や電気柵の設置、またその他の対
策としては忌避剤をまくという方法も考えられますけれども、野見金公園は公園の施設でありますので、来園
者への安全性、それから景観を配慮した対策で行うことが必要と考えております。野見金公園に実施できる対
策案としては金網柵を設置することがよいのではと考えられますけれども、これは守るべき範囲を全て囲い込
むことが効果があることとなります。公園は区域が広いこともあり費用もかかります。また公園内に町道が入
り込んでいる状況となっているため、金網柵で全てを囲うということができないという課題もあります。道路
を除いて分割した狭い範囲を囲むという方法もございますけれども、公園としての景観がどうかと思われます。
そのような課題がありますので、有効かつ経済的な対策について他の公園の事例を調査する中で有害鳥獣対策
を担当します県関係機関など、意見を伺いながら検討してまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（板倉正勝君） 9番、加藤喜男君。

○9番（加藤喜男君） いろいろだんだんこの問題が大きくなってきて困りましたですね。今年は350頭のイノシシの許可申請をしているところ、350頭捕まっちゃったと。私が捕まえたイノシシが350頭目だったんですが、もう50頭ぐらいなんか申請をしたということで、ほとんどが多分西地区のほうの山の中がメインであって大変だと思います。ちょうど見に行ったときに箱わなに1匹かかって、もうそこにはいなかったんですが、ちょうどそのときに見に行かせていただきました。これ、ひとつみんなで知恵を出して、多少金もかけないと多分いけないと思うんですね。安全と美観とを兼ね備えたイノシシ対策を十分練って行って、今後もひとつよろしくをお願いをしたいと思ひまして、この関係の質問を終わります。

それでは、次に廃小学校の活用について伺います。

この質問の趣旨でございますが、長南小学校だけでも町の管理下として残しておくべきではないかというふうに思っておるわけでございます。

町では昨年の6月に跡地活用検討委員会を立ち上げ、既に数回の会議が順調に行われているというふうに聞いております。この会議の議事録を拝見させていただきますと、各委員が活発な意見を交換されております。第3回、12月1日の議事録には町長のご意見も載っております。4小学校を企業に無料でもよいから活用していただきたいとか、委員会から活用案についての答申をいただくが別の案になるかは私の判断にさせていただき、私から町の皆様に提案し意見を求めると。

また、第4回の会議では、町長より、基本的に4校は企業、団体等に使ってもらい、コミュニケーションの場でもあるが、大きな施設を使いこなすには行政運営の立場では経費もかかることから難しいのではないかと、また昨日の施政方針でも企業誘致をはじめ、斬新な活用、アイデアをあるところということで話されておりました。

町長もご存じかもしれませんが、議員も全員で跡地活用の勉強会を開催しておるところでございます。1月末のこの会では、議員全員ですが、いろいろな意見もありました。全員といってもよいくらいなんですが、その時点では全員といってもいいくらいですが、4校全てを企業に任せるのではなく、1校程度は町が活用すべきではないかとの意見がありました。また、その1校は長南小がいいのではないかというような意見もございました。

では、学校を町の管理下として残し、どのように使うんだということでございますが、一例としましては、町から補助を受けている外郭団体、関係団体に使っていただくとか、災害時の用品を保管する備蓄倉庫とする、各種カルチャーに使っていただく、災害時等の宿泊できるスペースとして確保する、また、いろいろな建設時、町の建設時などの仮施設として使うなどありまして、2校を残してもいいのではないかという意見も少数ではございましたが、ございました。いずれにしても、1校以上町の管理の施設として残すべきだという意見が多くを占めたわけでございますが、町長が述べている4小学校を企業に貸し出すという考えについて、再度そういうことも踏まえまして、お考えを伺いたいと思います。

○議長（板倉正勝君） ただいまの質問に対して答弁を求めます。

町長、平野貞夫君。

○町長（平野貞夫君） 今の加藤議員のほうから、跡地活用検討委員会での私の発言について細かく話されたところでありますけれども、私は常々この跡地活用については企業、団体に使ってもらいたいという話をしてきました。これについては、前にも申し上げたことがあると思いますけれども、本町には町づくりの拠点となる施設がありません。私は就任してから何とかこの拠点づくりから始めなければならないと、そういうような思いに至っていたところであります。

そういった中で、小学校の統合による4つの小学校があくことになったわけであります。それぞれの小学校、地域の皆さんにとっては、大変思い入れのある施設であって、そのまま残してほしいという思いもあることはよくわかります。わかるんですけれども、やはり今の町の状況を考えたとき、この跡地活用こそが将来の長南町の命運を握るのではないかというふうに思うところであります。この跡地活用によって地域が活性化し、町の発展につながり、住民の雇用が加速されれば、町にとって大変ありがたいことだというふうに思っております。学校施設は余りにも巨大です。校舎は特殊な建物ですから、使い勝手が非常に悪いわけであります。それでもこの施設を使って事業を行いたいという企業、団体があれば、そしてそれが町にプラスに働くのであればぜひ来ていただきたいというふうに思っているところであります。

今の長南小学校を初め、幾つかの学校公共施設に、あるいはそのほかのいろいろな用途にというような話がありましたけれども、今お話しいたしましたように、あれだけの施設を使いこなすのは難しく、そしてまた町で管理したとしても、相当費用もかさむということになります。ですので、私は貸せる施設は貸して地域の活気を取り戻す、そして地域コミュニティという施設については小ざれいでコンパクトなものをつくって住民の利便性を高める、そういったようなことで思っているところであります。ありますけれども、議会のほうで施設跡地活用検討会というものを設置して、いろいろと検討していただいているということでございますことは本当にありがたいことだと思っておりますので、もしいいアイデアがありましたら、それを全て排除をするものではありません。いろいろとご提案があったものについては、しっかり検討し議論させていただきたいというふうにも思っておりますので、基本的な考え方は前に述べたとおりでありますけれども、あくまでも全体を見ながら総合的に判断をしていきたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（板倉正勝君） 9番、加藤喜男君。

○9番（加藤喜男君） ありがとうございます。

先ほども述べましたが、議会の中の多くの人はそういう長南小ぐらいはどうかということで思っておるということだけご承知おきいただければこれは結構です。

それでは、次にいきたいと思いますので、よろしくお願いします。

最後の質問ですが、児童クラブについてということで、小学校統合後の児童クラブをどのように考えているのかということですが、その前段としまして、町では国の基準に基づきまして長南町放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例等もつくりまして、今運営をしておるわけでございますが、この中に考えますと、この事業は公営がやる、公でつくって公で運営とか、公でつくって民が運営とか、民がつくって民が運営とかいうことで、この条文を見ますと町長はこの事業者に対して設備や運営の向上について勧告もできるというようなことでも載っております。現在の置かれておるこの児童クラブは、事業者は誰というふう

に考えればよろしいのかお伺いします。

○議長（板倉正勝君） ただいまの質問に対して答弁を求めます。

保健福祉課長、荒井清志君。

○保健福祉課長（荒井清志君） それでは、お答えいたします。

今現在の児童クラブの事業者というご質問でございますが、本町には暫定的に旧幼稚園を利用した長南町放課後児童クラブがあります。この児童クラブは町が設置をし、社会福祉協議会に運営を委託しておりますので、事業者は社会福祉協議会になります。

以上です。

○議長（板倉正勝君） 9番、加藤喜男君。

○9番（加藤喜男君） わかりました。

社会福祉協議会が運営しているということは、町はそこに勧告等をして指導していくということの関係でございますね。第2問で委託の範囲とかも全てでしょうが、委託料はどのぐらいの毎年でしたか。

○議長（板倉正勝君） ただいまの質問に対して答弁を求めます。

保健福祉課長、荒井清志君。

○保健福祉課長（荒井清志君） 委託料は平成28年度、今年度で指導員の人件費、活動費、事務費等で318万1,000円となっております。

以上です。

○議長（板倉正勝君） 9番、加藤喜男君に申し上げます。

一般質問の残り時間はあと10分程度になりましたので、簡潔にひとつよろしく申し上げます。

○9番（加藤喜男君） はい。ありがとうございます。

318万円、了解しました。これを払って全て社会福祉協議会に管理をお願いしておることでしょうか。次の質問ですが、この事業は放課後指導支援員を置かなければならないとされており、この支援員は各種の資格のほか、都道府県知事がこんな研修を修了した者とされている。現有資格が何人いるのか、何人ぐらいにしたいというふうに考えているのか、費用はどのくらいかかるのかとか、その辺がわかれば簡潔にお願いしたいと思います。

○議長（板倉正勝君） ただいまの質問に対して答弁を求めます。

保健福祉課長、荒井清志君。

○保健福祉課長（荒井清志君） それでは、お答えします。

今現在、指導員は8名おります。うち1名がご質問の放課後児童支援員の資格を取得しております。猶予期間の32年までには8名全員、少なくとも4名はこの放課後児童支援員の資格を取得していただきたいと考えております。資格取得のためには、平成28年度では、県庁や各地域振興事務所で年10回実施されております。近くの長生地域振興事務所では昨年11月に実施されたところです。講習日数は4日間、費用はテキスト代として2,000円となっております。

以上です。

○議長（板倉正勝君） 9番、加藤喜男君。

○9番（加藤喜男君） 4番目の、多分これはできないと思いますけれども、この時間帯を使って教育をすることはできないということで考えてよろしいですね。

○議長（板倉正勝君） ただいまの質問に対して答弁を求めます。

保健福祉課長、荒井清志君。

○保健福祉課長（荒井清志君） 放課後児童クラブはご指摘のとおり、放課後、就業や看護等により保護者が不在となる児童に対して心身とも健全に育成されるように支援をするということが目的となっております。放課後の居場所として自宅にいるようにリラックスして過ごせるような環境の提供に心がけております。とはいえ、集団生活、集団での行動となりますので、活動スケジュールを組み、その中には宿題、自由勉強の時間もあります。その際、児童から教えてほしいという要請もあり、家の方が子供に教える程度のアドバイスはするというようなことは聞きます。学力向上を目的とした学習指導といった程度のものでありませし、教えた内容が保証されているものでもございませし。できないかと問われれば、ただ特に禁止事項ではないので、できないことはありませんが、児童クラブの設置目的でもなく、優先されることでもなく、必要と求められているものでもありませし、この学習指導、教育同様な教育という形の教育が児童クラブの児童の負担になってはならないというふうに考えております。

以上のことから、児童クラブでの教育というものについては不適というふうに回答させていただきます。

以上です。

○議長（板倉正勝君） 9番、加藤喜男君。

○9番（加藤喜男君） ありがとうございます。あと何分あるかな。

○議長（板倉正勝君） 6分ぐらいだね。

○9番（加藤喜男君） 6分ぐらいありますか。

最後の関係で、小学校の統合に際してどうするのかということを考えて出しておりましたところ、今回の予算で約4,500万円のうち1,600万円は補助のいただく中で、新しい施設を長南中学校のテニスコートを潰してつくるというような案が予算が計上されておりました。新たに必要につくる理由というところをお聞かせいただかなくてはいけなくなるんですけれども、現状でもいいだろうし、統合小学校の中を使ってもいいんじゃないかとか、改善センターも近い、子育て交流館などもある。長南小だってもし町長がオーケーして町が管理すればスペースもできるというふうなことで、ここに4,500万円を投じて建てる理由をもう予算が出てきましたので、ちょっとその辺が説明をいただきたいと思います。

○議長（板倉正勝君） ただいまの質問に対して答弁を求めます。

保健福祉課長、荒井清志君。

○保健福祉課長（荒井清志君） 今回、統合小学校ということで、1校になるということで、その1校になるということに、今4校に送迎のバスが行って、2台出して今は旧幼稚園に集めておるところでございます。この統合小学校ということで、その最大1校になるということ、メリットを生かして利用する、児童の利便性、移動の際の安全性、また保護者が安心して預けられる環境を確保するために、また関係者も地域の皆さんの目の届きやすいところということで、小・中一貫校の敷地に設置したいというふうに考えております。総合的に判断をし、決めたところです。もちろん今預けている保護者の方であるとか、あと今後、小学校に上がるお子

さん方お持ちの方々の熱い要望がありまして、いろいろ検討し、こういった結果に至ったところです。

候補地としてはテニスコートの一角を考えており、児童は一貫校の敷地の中の移動で通え、保護者の送迎は道路から容易にできるようになります。駐在所、役場の庁舎にも隣接していますので、目の届きやすい場所がいいなというふうに考えております。

以上です。

○議長（板倉正勝君） 9番、加藤喜男君。

○9番（加藤喜男君） ありがとうございます。

一部聞きましたところ、現状の幼稚園、非常に今暗いとか蛇が出るとかなんかいろいろあるようであります。長年幼稚園として使ってきた実績もあるところで今やっておるわけございまして、そんなにじめじめとか暗いのであれば、回りを木をもう切らせてもらって、丸坊主にしてもらって明るくするとか、何か今この4,500万円を使っていかなものかなということがありましたのでお聞きしました。まだ本件は一般会計の予算に計上されておりますから、まだ各議員がいろいろ質疑があると思いますが、ちょうど私、今回このような関係で疑問に思ったので質問を出しましたが、ちょうど予算に載ってきたということで、あえて今回、今一部ですけれども、またお聞きするかもしれませんが聞かせていただきました。

ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。ありがとうございます。

○議長（板倉正勝君） これで9番、加藤喜男君の一般質問は終わりました。

ここで暫時休憩といたします。再開につきましては11時15分を予定しております。

（午前10時59分）

○議長（板倉正勝君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午前11時15分）

◇ 丸 島 な か 君

○議長（板倉正勝君） 次に、11番、丸島なか君。

〔11番 丸島なか君質問席〕

○11番（丸島なか君） 11番議席の丸島でございます。

議長のお許しをいただきましたので、通告に従い2点質問させていただきます。

まず、1点目の空き家対策についてお伺いをいたします。

昨年9月に質問いたしましたが、再度質問させていただきます。

空き家を一括で管理するために、空き家対策の専門部署を設けて対応していただいていることは、大変すばらしいことだと思います。昨年7月現在では、町内に空き家が253件ほどあるということでした。

空き家には、大きく分類をいたしまして二通りあるということで、有効と思われる空き家は115件ということでした。そのあとの138件の空き家は、管理されていない特定空き家ということになります。町内を歩いてみますと、人が住んでいる気配が全くなく、雑草が生い茂り、荒廃した状態で放置されている家屋を見かけ

ます。ごみなどが放置されていて、その状況を見てさらにごみが捨てられていく悪循環ともなりかねません。そのような状況の場所がふえているように思われます。

管理されていない特定空き家については、所有者の権利も大事ではありますが、やはりその近隣に住まわれている方のことも考慮しなければならないと思います。隣に管理されていない空き家があることで、例えば家屋の倒壊、虫や鳥による被害や不審者による放火等の心配をなるべく早く払拭することが大切だと思います。管理されていない特定空き家については、安全性に問題があり、近隣住民は不安を抱えたまま生活をしております。

そこで、管理されていない特定空き家の現状と対応をお伺いいたします。

○議長（板倉正勝君） ただいまの質問に対して答弁を求めます。

総務課長、田邊功一君。

○総務課長（田邊功一君） 大きく2つのご質問だと思います。管理されていない空き家の現状、そして対応ということだと思います。

丸島議員さん言われますように、町で昨年、空き家の調査をいたしまして、今言われたように空き家と思われる戸数、これが253戸で、このうちの115戸が改修等を行えば居住が可能ではないかと思われるということ、9月議会におきまして答弁をさせていただきました。言いかえれば、残りの138戸については、老朽化したものもございますし、別荘として使用しているようなもの、また、所有者が不明なものなど理由はさまざまでございますけれども、有効空き家として利用できないものと考えまして、空き家バンク登録のための意向調査はいたしませんでした。

ご質問の管理をされていない空き家ということですが、ただいま申し上げたとおり、バンク登録のための調査を行ったものですから、しかも昨年初めて調査をいたしましたので、具体的なその敷地や建物の管理内容、例えば草刈りを年1回または2回、あるいは部屋の中の掃除を1、2回実施しているなど、その管理の実態については町のほうでは把握はしておりません。

把握はしておりませんが、平成28年度現在で、近隣住民からの苦情等は6件寄せられております。内容については、建築物に係るものが3件、敷地に係るものが3件ということでございまして、おのおの所有者を調査いたしまして電話や書面で現状を説明し、理解をしていただき、適切な管理や改善をお願いするなどの対応をしているところでございます。

以上です。よろしくお願いします。

○議長（板倉正勝君） 11番、丸島なか君。

○11番（丸島なか君） 苦情など6件ほど寄せられているということでございますけれども、関連で再質問をさせていただきます。

税制により、更地にすると建物が建っているより税金の負担が重くなるということで、撤去が進まないという話もお聞きいたしますけれども、やはりそのようなことがあると認識されているのでしょうか。もしそうだとすれば、有効と思われる空き家を何とか利用することを最優先に考えるべきだと思います。

過去には、借りたい方は多くいるのに貸す側がない、貸し手が少なく供給不足ということを知ったことがありますので、短期間でも行政が仲立ちをして格安で利用してもらうことをあつせんするというようなことが

必要かと思いますが、考えをお伺いいたします。

○議長（板倉正勝君） ただいまの質問に対して答弁を求めます。

企画政策課長、田中英司君。

○企画政策課長（田中英司君） 現在の町の空き家バンクの制度につきましては、町はスタンスとしてあくまでも紹介する立場であると。宅地建物取引業法に伴う当事者間の直接的な契約関係に介在するような媒介、仲介等はいたしておりません。

今、総務課長が申しましたとおり、この登録物件の状況につきましては、空き家調査を昨年夏、実態を調査する中で、その当時登録されている物件は2件でございました。しかしながら、調査を進める中で、今年に入って2月21日現在では、空き家バンクの登録が4件、物件所有者と現在交渉中のものが5件、また、連絡待ち等件数が14件ということで、23件がこういった空き家バンクに関する登録状況の推移でございます。確実に登録物件はふえてきておると、また、さらにはこの関係につきまして、不動産情報の掲載物件として9件が直接、町民のお客様のほうでは不動産事業者のほうへ申し込みをしておるといような状況でございます。

このように、空き家バンクの登録物件の増加が見込まれる中、この登録物件の売買及び賃貸借の適正かつ円滑な推移を図っていき、移住・定住の促進並びに地域の活性化に寄与するというようなことを目標として、空き家情報バンク制度、空き家媒介に関する協定というものを町内の宅地建物取引業者の3社と、年が明けて1月27日に締結しております。

したがって、当事者が希望する場合には、こういった仲介媒介取引を業務としている宅地建物取引の専門業者にも直接お願いしていくというような側面からも、いろいろとサポートしてまいりたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（板倉正勝君） 11番、丸島なか君。

○11番（丸島なか君） ありがとうございます。

町の活性化のためにも登録をしているところがふえているということで、移住・定住をぜひ積極的に取り組んでいただきたいと思います。

次に移らせていただきますけれども、管理されていない特定空き家の要件が具体的に挙げられております。1として、著しく保安上危険となるおそれのある状態。また2つ目が、衛生上有害となるおそれのある状態、3つ目、著しく景観を損なっている状態、4つ目、その他の周辺、生活環境の保全を図るために放置することが不適切である状態の、この4要件であります。そして、外観や人の出入り等の使用状況から、年間を通して使用されていないといった状況判定を踏まえて、行政が空き家と認定したものが特定空き家と呼ばれるということです。

また、その所有者の特定については、不動産登記や住民票、戸籍謄本などに加え、固定資産課税台帳を利用することも可能となります。使われていない家屋がそのまま放置される大きな要因である、住宅用地としての固定資産税評価額が、最大6分の1となる特例措置についての改正もありました。行政から必要な改善措置をとることを勧告された後に状況が変わらない場合、更地と同じ固定資産税額を納めることになるということです。

このように、地方自治体は、国で定めた空き家等に関する施策の基本方針に沿って、空き家等対策計画を定め、その作成及び実施に関する協議会を組織することが求められます。また、それに伴う立ち入り調査権も認められており、調査の権限も強化されました。法によって、空き家に対する実態調査及び対応策が明らかになり、それに沿って検討していくといったことも法律でうたわれており、行政として、特定空き家として放置されている家屋について、何らかの行動を起こしていくことが求められることとなりました。

特定空き家については、所有者の権利も大事ですが、近隣に住んでいる方のことも考慮しなければならないと思います。また、空き家は、今後さらに増加傾向にあり、深刻さを増していくと考えます。危険な状況の空き家については、町が撤去して、その費用を持ち主に負担させるといったことも必要かと思われます。香取市では、空き家対策特別措置法に基づき、市内の空き家2件が、市の職員が撤去したそうです。

このように、既に条例をつくって対策に当たっている自治体もございます。そのような条例化について、町として検討されているかどうかお伺いをいたします。

○議長（板倉正勝君） ただいまの質問に対して答弁を求めます。

建設環境課長、唐鎌伸康君。

○建設環境課長（唐鎌伸康君） 先ほど、丸島なか議員より、空き家対策の特別措置法に対する概要等、説明がありましたが、この法律に基づきますと、第3条には、空き家等の所有者の責務として、所有者または管理者は、周辺の生活環境に悪影響を及ぼさないように、空き家等の適切な管理に努めるとされております。こういったことから、空き家対策につきましては、第一義的に所有者及び管理者に理解を求めながら、庁舎内の各課と連携をいたしまして、現行の法律、法令により対応していきたいと考えておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

以上です。

○議長（板倉正勝君） 11番、丸島なか君。

○11番（丸島なか君） ありがとうございます。

平成26年11月に、この空き家等対策の推進に関する特別措置法が成立いたしました。町の積極的な対策が求められていると思いますので、今後とも前向きな対応をお願いいたしまして、この質問を終わります。

2点目の公共施設のバリアフリー対策についてお伺いをいたします。

我が町では、人口減少、少子高齢化の進展に伴い、平成22年4月に、大多喜町とともに過疎化の指定を受け、この4月からは小学校が統合されるということになりました。皆様ご承知のとおりですが、我が町の公共施設は、高度経済成長期に整備されてきたものが多く、老朽化し、耐震、建てかえが言われておりますけれども、今後の計画についてお伺いをいたします。

○議長（板倉正勝君） ただいまの質問に対して答弁を求めます。

総務課長、田邊功一君。

○総務課長（田邊功一君） 公共施設を取り巻く現状といたしましては、施設の多くが昭和40年代後半、そして60年代にかけて整備をされ、老朽化が進行しています。今後、施設の更新や改修が必要となる時期を迎え、その施設の更新・改修等に多額の費用を費やすことや、時期が集中することが想定されます。そのために、施設の安全性や性能の確保等、更新に係る費用の抑制、平準化を図る必要がございます。町では、こうした状況を

踏まえまして、平成28年度中に公共施設等総合管理計画を策定し、その中で基本的な方針を立てて進めてまいります。

特に、役場庁舎、公民館につきましては、過去に一般質問等で答弁をさせていただいたとおり、耐震性に問題がございますので、建てかえ等を検討していますので、その際、基準に適合する施設にしていきたいと思います。

また、そのほかの公共施設につきましては、財政事情を考慮する中で、できるところから進めてまいります。よろしくお願いいたします。

○議長（板倉正勝君） 11番、丸島なか君。

○11番（丸島なか君） 総合管理計画を策定して進めていく、また、役場庁舎、公民館は建てかえの方向、他の公共施設はできるところから進めていくと、こういう答弁でしたけれども、私は平成24年3月にバリアフリー対策について質問をさせていただきました。そのときの答弁は、これから考えていきますとか検討しますという、こういう答弁でした。

あれから5年が経過いたしました。小学校のようにすぐ建てかえと、そういうふうに言っているわけはありません。これから計画案を作成しながら、建設までには相当時間も年月もかかるといいますので、今現在使用しているものをちょっとずつ手を加えて使いやすくしていただきたいと思います。

まずは庁舎のエレベーターの設置、階段の手すりの設置、こういうことはどのように考えているのか伺います。

○議長（板倉正勝君） ただいまの質問に対して答弁を求めます。

総務課長、田邊功一君。

○総務課長（田邊功一君） 平成24年度に確かに質問されて、いろいろ答弁をさせていただきました。耐震診断を実施した中で、緊急時を除いて庁舎改修年次計画の中で考えてまいりますということで答弁をされたと思います。

エレベーターについては、当然、費用的にも当時五、六千万円かかるのではないかなというように思っていたと思います。今申し上げたとおり、この建物も改修というよりは建てかえを検討しておりますので、エレベーター、それから手すり、緊急時以外のものということで、建てかえ時に検討をさせていただきたいと思っています。

以上です。

○議長（板倉正勝君） 11番、丸島なか君。

○11番（丸島なか君） 町の高齢化は、昨日もお話がありましたけれども、約4割ということで、膝だとか腰が痛いという方も多く、しゃがむこともできない、また、医師からもそれ以上しゃがんじゃだめとか、そういうふうには禁止されているという声もお聞きいたします。高齢者が公共施設に訪れたときに、安心して利用できるように、公民館や改善センター、公共施設ですね、そういうところにトイレが2個ないし3個ずつあるわけですが、その2個や3個あるその1個を洋式トイレに変えていただければありがたい。また、海洋センター、体育館とか尚武館ですね、そういうところを利用している子供たちの保護者から聞いたところでは、日ごろ使用している洋式トイレと違って、子供がトイレを使用するとき、自分一人で使用できないので面倒見て

いるというふうなお話も聞いております。また、町の体育館、改善センターは、トイレの壁のところに「身障者便所」というふうにトイレの扉に書いてあるんですけども、昭和50年代ごろというか、今お話があったように、40年代、50年代に建てられたということで、そういう表記なんだろうけれども、とても古めかしいといえますか、ちょっと違和感があるようにも思います。もっと町民に優しい、人に優しい表記にしていただけないでしょうか。

また、トイレは明るい、きれい、快適、便座も温かいというのが今現在の普通といえますかね、そういうふうだと思うんですね。せっかくの身障者トイレも、普通の和式のトイレが使えないからそこをお使いになる方もふえているわけなんですけれども、そこを使うと、やっぱりこういう寒い時期は、ひやっとして、もう本当にそういう状態で使っているということで、せめて温かくしていただければということで、保健センターも新年度になりますと多くの方が健康診断等に訪れるわけなんですけれども、せっかく洋式トイレがあるのに、それが気がつかないわけですね。それで無理をして和式を使ったり、我慢をしたりしてということでお話をよく聞かれていますね。だから、はっきり誰にでもわかるような表記を取りつけていただきたいと思います。

どのように考えるのかお伺いします。

○議長（板倉正勝君） ただいまの質問に対して答弁を求めます。

生涯学習課長、岩崎利之君。

○生涯学習課長（岩崎利之君） 生涯学習課管轄につきましても今言われた公民館、また海洋センター関係の体育館、プールというような施設がございます。その中に、プールにつきましては、身障者用というか、そういうものについては設けてございませんが、女子のトイレが洋式として2つ、男子は洋式1つ、小便器が2つというようなことで設けております。

また、プールについては、不具合等も聞いておりません、また今後もプールに関してのそういう身障者用のものというものは今のところ必要性は感じておりませんので、このままの対応で維持に努めていきたいと思っております。

それから、公民館につきましては、総務課長の答弁のとおり、耐震の関係から建てかえも今後検討していくということなので、今の施設を活用して維持に努めていきたいと思っております。

それからもう一つ、体育館につきましては、女子で洋式のほうが1つと、それから男子は和式と小便器だけです、身障者用として間に1カ所、これは車椅子等でも当然入れるようになっております。

現在のところ、そういうものについてのクレームといえますか、そういうものについては余り聞いておりませんが、今後も身障者用としてのトイレの必要性というものについては、余り感じは受けておりません。ただ、今後そういうものについての必要性等がありましたら、また検討していきたいというふうには考えております。ただ、現状では、今の中のを維持してまいりたいと思っております。

それから、トイレの表記の件ですが、昔からトイレについては「便所」というようなところで大体表記されていると思います。これは公民館、体育館、プールだけではありませんので、他の施設についても同じような表記になっていると思います。これについても各施設関係者とも一緒になって検討しながら考えていく必要があるのかと思っております。ただ、便所という言葉が間違いではないということなので、優しい言葉で表記してもらいたいというお話なので、これについてすぐそういうものの札を取りかえるという話になるかわかりま

せんけれども、また施設関係者との話し合いを持っていきたいというふうに考えています。

○議長（板倉正勝君） 総務課長、田邊功一君。

○総務課長（田邊功一君） 保健センターの話が出ましたけれども、保健センターの1階の女性用トイレというのが4台あるわけですが、現在、和式ということもあって、新年度予算にお願いしてあるわけなんですけれども、2台ほど洋式のほうに変えさせていただきたいということで、予算要望させていただいてございますので、ひとつよろしく願いいたします。

○議長（板倉正勝君） 11番、丸島なか君。

○11番（丸島なか君） 総務課長、ありがとうございます。大変皆さん喜ぶと思います。

何かいろいろ細かいことを申し上げましたけれども、やはり町民の目線、住民目線でのご質問でございますので、執行部の皆様も町民の目線に立っての行政運営をお願いいたしまして、質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（板倉正勝君） これで11番、丸島なか君の一般質問は終わりました。

ここで暫時休憩いたします。再開につきましては、1時を予定しております。

（午前11時44分）

○議長（板倉正勝君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後 1時00分）

◇ 和田和夫君

○議長（板倉正勝君） 次に、12番、和田和夫君。

〔12番 和田和夫君質問席〕

○12番（和田和夫君） 議長の許可を得まして、一般質問をさせていただきます。日本共産党の和田和夫です。1つ目は、イノシシ対策についてです。

イノシシの推定生息数は、全国で1990年度の約27万頭から98万頭へと4倍近くにふえています。分布の域も1978年度から2014年度まで、この36年間で約1.7倍に広がりました。千葉県では、イノシシは根絶したと考えられる時期もありました。しかし、20年ほど前に復活の兆しを見せると急増し、捕獲数は年1万頭から、年々被害がふえて捕獲実績もふえてきていると思いますが、被害の面積被害の量、被害の金額、また防護柵の設置状況についてお聞かせください。

○議長（板倉正勝君） ただいまの質問に対して答弁を求めます。

農地保全課長、松坂和俊君。

○農地保全課長（松坂和俊君） 和田議員さんの、イノシシの関係で被害の状況と防護柵の設置状況、このご質問ですが、担当課長の私のほうからお答えさせていただきます。

まず、今年度のイノシシによる農作物の被害状況について、ご説明をいたします。被害額などは農業共済組合への被害報告によりまして算出しております。

被害作物は、前年度、27年度までは、水稻のみでしたが、今年度は、豆類、大豆も加わっております。被害

面積ですけれども、水稻が10.5ヘクタール、大豆は3.1ヘクタール、合計で13.6ヘクタールとなっております。被害量ですが、水稻が2万2,763キログラム、大豆ですけれども2,045キログラム、合計で2万4,808キログラムとなっております。被害額ですけれども、水稻につきましては、364万5,000円、大豆は22万7,000円、合わせまして387万2,000円の被害額となっております。

前年度と比較しますと、被害面積では2.1ヘクタール、18.3%の増、被害金額では、135万1,000円、54%の増、こういった状況となっております。

次に防護柵、電気柵の設置の状況でございますが、今年度に設置しました電気柵は、まず国庫補助分で15カ所、1万1,440メートル、面積では18万4,411平方メートルとなっております。また、町の単独補助分、これにつきましては、41カ所で延長的には1万291メートルとなっております。面積につきましては15万380平方メートル、合計で申しますと、国庫補助分、単独分、合わせますと、設置の延長は2万1,731メートル、面積は33万4,791平方メートル、これは33.48ヘクタールということとなります。前年度と比較しますと、設置延長では1万3,787メートル、274%の増、面積では22.7ヘクタール、311%増の状況でございます。

以上でございます。

○議長（板倉正勝君） 12番、和田和夫君。

○12番（和田和夫君） やはり年々被害がふえてきているということが明らかになってきたんですけれども、そこで、もう1つの質問は、今年から鳥獣被害対策実施隊というのをつくられたわけですが、その活動はどんなところに重点が置かれて、成果はどのようなことが上がってきているのでしょうか。お答えください。

○議長（板倉正勝君） ただいまの質問に対して答弁を求めます。

農地保全課長、松坂和俊君。

○農地保全課長（松坂和俊君） 実施隊の活動の中でどんなところに重点を置いたか、またその成果というご質問だと思います。年々増加しておりますイノシシですけれども、まず捕獲して個体数を減らさなければならぬということで、捕獲の実績が多い、箱わな、くくりわな、こういったわなの管理を十分しておこうということで、特に箱わなの巡回管理、これに重点を置きました。これにつきましては、以前から箱わなの管理が十分でないというご指摘も受けておりましたので、今回しっかりと箱わなの管理をして、餌がなかったり、扉が閉まりっ放しだったり、草が生えていたり、そういうご指摘の中で、こういったことを巡回の管理をして徹底して管理していこうということで、重点を置いたところでございます。

また、実施隊のわなの関係で、箱わなが一番実績が上がっているところなんですけれども、くくりわなもだんだん実績が上がってきておりまして、くくりわなも強化していこうということで、実施隊の隊員8名の方に、特に猟師、免許を持ってはいない方の地域なども十分見回りしてもらって、このくくりをかけてもらって、広域的に捕獲の強化に努めたところでございます。その成果といたしまして、年々ふえているところなんです、捕獲頭数につきましても、今現在で363頭捕獲いたしました。箱わなが254頭、くくりが107頭ということで、捕獲の強化につながっているということで考えております。

以上です。よろしくお願いします。

○議長（板倉正勝君） 12番、和田和夫君。

○12番（和田和夫君） 鳥獣被害対策実施隊の成果が上がってきていると思いますので、もっと実施隊の人を

ふやしていくということはどうでしょうか。

○議長（板倉正勝君） ただいまの質問に対して答弁を求めます。

農地保全課長、松坂和俊君。

○農地保全課長（松坂和俊君） イノシシの生息も被害も今、町内全域になっております。各集落の単位で、わなの免許を持った方がいれば一番いいんですけども、まだ十分でないということで、これからそういうわな免許を取っていただく方をふやしていきたいと。町内全域で、各集落にそういった方がいるような、そういう免許に対してのまた助成とか、そういったことをしていきたいと思っております。隊員をふやしていきたいと。町内全域に均等にそういった方がいるようにしていきたいと、そういったことで考えております。

以上です。

○議長（板倉正勝君） 12番、和田和夫君。

○12番（和田和夫君） そういうことで、ふやしていく形で努力してもらいたいと思います。

次の質問に移ります。

千葉県の第二種特定鳥獣管理計画について、3月までとなっていますけれども、この計画はどうなっているかということなのですが、民間の法人を活用して、これまでの市町村に加えて県が捕獲する制度を創設する、集中的かつ広域的に生息数の管理を図る実施体制の整備は図りました。農作物の被害を軽減するために、国と連携した対策を進めると千葉県第二種特定鳥獣計画にあります。その期限は、今年の3月31日までとなっています。そして、10年後の平成35年までにイノシシを半減させるとありますが、今年の3月で計画は終わってしまうのでしょうか。お答えください。

○議長（板倉正勝君） ただいまの質問に対して答弁を求めます。

農地保全課長、松坂和俊君。

○農地保全課長（松坂和俊君） 県の管理計画であります、千葉県第二種特定鳥獣管理計画、この関係につきましてのご質問ということでお答えさせていただきます。

まず、本計画の背景、経緯についてご説明させていただきます。

イノシシを初めとする野生鳥獣による被害は、本県だけではなく、全国的な問題となっております。こうしたことから、平成25年12月に、環境省と農林水産省が共同で抜本的な鳥獣捕獲強化対策を取りまとめ、この中で、当面の捕獲目標としまして、ニホンジカ、イノシシの個体数を10年後、平成35年までに半減させることを目指すこととしたところでございます。

このような状況を踏まえ、平成26年5月に鳥獣保護法が改正され、深刻な被害を及ぼす鳥獣については、生息数を適正な水準に減少させる鳥獣の管理、これが法の目的に明確に位置づけられました。ニホンジカとイノシシは環境大臣から指定管理鳥獣として指定されたところでございます。

このことから、本県においてもイノシシの生息数を適正な水準に減少させる管理の対象として、平成25年1月に県が策定した千葉県イノシシ対策計画の内容を盛り込む形で、平成27年4月に本計画を作成したところでございます。

この計画の内容ですけれども、平成22年度に県が行いました各市町村における地域ごとの被害等のアンケートをもとに、県内の被害状況に応じた地区区分、これは被害対策地域、拡大防止地域、前線地域、未生息地域、

この4つに区分した上で、それぞれ目標を設定しまして、効率的かつ効果的に対策を進めていくといった内容でございます。

目標につきましては、平成28年度における県内の地区区分別の被害金額及び被害面積の軽減が目標とされております。目標の軽減率につきましては、各地域の平均で26.7%、数値的な目標はこういったことで設定されております。

本計画の期間は、平成27年5月29日から平成29年3月31日までとなっておりますが、千葉県は引き続き、平成29年4月1日から平成34年3月31日までの第2次5カ年計画を策定し、現在パブリックコメントを実施中ということで聞いております。

第2次5カ年の管理計画に向けては、現計画と同様に、平成27年度から平成28年度にかけて実施しました市町村の地域別アンケート、これは農家組合長さん等が対象になりますけれども、こういったアンケートをもとに、農作物被害の軽減及び生活環境被害の防止を図ることを目的に、第1次イノシシ管理計画を改定しまして、第2次千葉県第二種特定鳥獣管理計画として策定するものでございます。千葉県は、県内各地域の実情に応じたきめ細かな総合対策を市町村と連携して講じていくと、そういったことで聞いております。

以上です。よろしくお願いいたします。

○議長（板倉正勝君） 12番、和田和夫君。

○12番（和田和夫君） そういうことで、この千葉県の計画もつくられていって、今年は3月で終わりということではなくて、なくすために向かっていくということですから、計画に基づいて進められていくのではないかなと考えました。

そこで次の質問に移ります。

情報提供を呼びかけて、捕獲だけでなく集落ごとの対策をつくることについて、質問をいたします。

長野県塩尻市の上田地区では、平成11年度に米の耕作地約28ヘクタールの7割が稲をなぎ倒されるなどの被害が起きました。市内の情報通信技術関連の企業グループに依頼し、けものを感知するフラッシュ光や、サイレン音で追い払うセンサーを設置しました。感知と同時に農家や猟友会のメンバーに携帯メールが届き、現場に急行して花火を打ち上げて、くくりわなを仕掛け、3頭捕まえました。1年目に被害は2割減り、2年目はゼロになりました。住民の関心が高まると、休耕地も減ってきました。常に人がいると思わせること、自分たちで守ると団結したことが大きかったと元区長さんが述べています。

最近、私のところでも、イノシシに出会い、大きくて怖かった、畑の作物をイノシシが食い荒らした、イノシシとぶつかりそうになったなど、被害が出ています。情報提供を呼びかけて、工夫、対策を立てることが必要ではないでしょうか。生息、環境管理が必要です。集落の高齢化が進んでおりますので、集落へのイノシシの侵入を防止し、人との亀裂を抑制しなくてはなりません。対策方法を入れたパンフレットをつくって、配布をしたらどうでしょうか。お答えください。

○議長（板倉正勝君） ただいまの質問に対して答弁を求めます。

農地保全課長、松坂和俊君。

○農地保全課長（松坂和俊君） イノシシ対策の中で、情報提供を呼びかけ、集落ごとの対策をというご質問ですけれども、お答えさせていただきます。

ご質問のとおり、イノシシなどの有害獣対策は、行政だけではなく、町と地域が連携して、集落の住民の方々が共通の認識を持つ中で、地域ぐるみの対策が必須であると考えております。

イノシシ対策は、捕獲、被害防除、生息環境管理などを地域で協力し、総合的に取り組んでいかなければなりません。

先ほどの第2次千葉県第二種特定鳥獣管理計画、この中でも、農作物被害を軽減するには、防護柵の設置や捕獲だけではなくて、農村集落における生息環境管理が重要であるとされております。

具体的に申しますと、収穫しない野菜や果物の処分、伐採、稲作の二番穂を防止するための早期の耕うんの実施、耕作放棄地の解消、竹林の拡大防止や、やぶの刈り払いなど、こういったことを行い、イノシシの隠れ場をなくすなど、集落にイノシシを寄せつけない環境づくりが必要だとされております。

こうした集落の環境整備は、個人でできる作業と、過疎化や高齢化が進む中で、組織で取り組んでいかなければならない活動もございます。

町は現在、町のホームページで、こうした野生鳥獣のイノシシなどの生態、被害防止の対策などについて情報提供し、啓発を図っているところでございますが、近年、イノシシは身近な生活圏まで入ってきていることから、人への被害防止に向けた対策情報も含めまして、町の広報紙等も活用する中で、地域住民の方々への情報周知の徹底に努めていきたいと、こういったところで考えております。

また、集落の組織で取り組んでいかなければならない活動につきましては、既に組織活動しております営農組合や環境保全協議会、こういった組織に対し、会議の場や活動を通して、イノシシ対策の啓発を図っていききたい、こういったことで考えております。

また、パンフレット等につきましては、千葉県もいろいろ対策のマニュアルとかパンフレットを出しておりますので、そういったものを活用した中で、また町民の方々への周知徹底を図っていききたいと、こういったことで考えておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

以上です。

○議長（板倉正勝君） 12番、和田和夫君。

○12番（和田和夫君） 私も町のホームページを見させていただいたんですけれども、イノシシに対する認識が変わってきました。どうやって減らしていくのかということも考えなくてはならないと思いますので、何とか県等を通じてこのパンフレットなどで周知をしていくし、また、集落を挙げてこのイノシシ対策に取り組んでいってもらいたいと思います。

次に、太陽光発電についてでございます。

現在のエネルギーについて、福島原発事故で明らかになったように、原子力や地球温暖化の原因とも言われる二酸化炭素を排出する火力発電などに頼らない電力エネルギーの確保が急務と考えられています。地球に負荷がかかるエネルギーから、地球に優しいエネルギー、特に再生可能エネルギーに変換していくことが今、強く求められています。再生可能エネルギーの一つである太陽光発電は、クリーンエネルギーとして今後も重要なものと思います。この再生可能エネルギーをつくる施設のためには、住環境の悪化が起こるということはありませんし、趣旨からいっても本末転倒ではないでしょうか。そういうことが各地で起こり始めています。耕作放棄地や住宅に隣接した森林などへ太陽光発電が設置され、このことによって生活環境が大きく変わ

ってきた。昨年の12月議会で加藤議員が質問をしております。ほかの市の事例ですが、耕作放棄地に設置され、太陽光発電の場所がビニールシートで覆われ、雨水の管理がされない場合がある。住宅地に設置された場合、反射光や反射熱によって生活環境が悪化する。発電の施設により1階部分に太陽の光が差し込まなくなった。防風林の役目を果たしていく木々がなくなってしまった。台風による被害が拡大してしまっている。むしろ排水がないために、近隣の住宅地に流れ込んでしまう。個人が了承していないために、設置業者がおのおのばらばらで対応ができないなど、設置また設置業者の看板がわかりにくいなど、問題が起こっております。

そこで質問ですが、屋根の上などに設置されているものを除いて、何カ所ぐらい太陽光発電が設置されていますか。お答えください。

○議長（板倉正勝君） ただいまの質問に対して答弁を求めます。

建設環境課長、唐鎌伸康君。

○建設環境課長（唐鎌伸康君） 初めに、屋根以外の太陽光発電設備が、町内に何カ所設置されているのかとの質問ですが、施設の内容等まで詳細に把握できておりませけれども、現在のところ20カ所の設置を確認しております。

この20カ所のうち17カ所は、遊休地を活用した比較的小規模な施設でありまして、残る3カ所につきましては、面積1ヘクタール以上で、林地開発に係る指導等を受けて設置されているところでございます。

以上です。

○議長（板倉正勝君） 12番、和田和夫君。

○12番（和田和夫君） 遊休地を活用して17カ所、また県や何か、町の指導で3カ所ある、20カ所ということなんですけれども、今、町の太陽光発電の設置補助金というのは1キロワット当たり4万円で、上限は14万円なんですけれども、この17カ所のうち、この設置補助金を受けているのは、どのぐらいあるんでしょうか。お答えください。

○議長（板倉正勝君） ただいまの質問に対して答弁を求めます。

建設環境課長、唐鎌伸康君。

○建設環境課長（唐鎌伸康君） ただいまの補助金を受けている箇所数ですが、本町の場合はゼロでございます。

○議長（板倉正勝君） 12番、和田和夫君。

○12番（和田和夫君） わかりました。

もう一点の質問なんですけれども、設置に対して法的な規制はされているのでしょうか。大規模施設と小規模施設に分けて、また土砂災害警戒区域、急傾斜地の崩落など、危険性の区域など、災害の防止、生活環境、自然環境及び景観の保全との調和を図る必要があると考えます。千葉県では規制がないので、今度つくる予定だと聞いております。町独自に規制条例などを制定する必要があると考えますが、いかがでしょうか。お答えください。

○議長（板倉正勝君） ただいまの質問に対して答弁を求めます。

建設環境課長、唐鎌伸康君。

○建設環境課長（唐鎌伸康君） 町独自の規制条例についてのご質問なんですけれども、本町の場合です。低山間地域でございまして、住宅地につきまして町内に散在しておりまして、太陽光施設による生活環境問題において

も、市街化地域と比べて少ない状況にあると思われます。

つきましては、今後とも関係する法令に基づきまして対応してまいりたいと思います。現時点では条例の制定については考えておりませんので、ご理解をいただきたいと思います。

以上です。

○議長（板倉正勝君） 12番、和田和夫君。

○12番（和田和夫君） 被害があつてからでは遅いと思います。規制をすり抜けてつくられてしまうのではないかと考えております。要望だけでも、検討するよう、もう一度考えていただきたいと思います。

以上で質問を終わります。

○議長（板倉正勝君） これで、12番、和田和夫君の一般質問は終わりました。

◇ 仁茂田 健 一 君

○議長（板倉正勝君） 次に、10番、仁茂田健一君。

〔10番 仁茂田健一君質問席〕

○10番（仁茂田健一君） 議長のお許しを得ましたので、質問させていただきます。

初めに、町として現在、学校関係の大きい事業が終わり、5,000万円以下の事業が数件見られ、町長としての動きが見えてきました。また今後、大きい事業が数件、話題にのっています。昨日の施政方針、今朝の千葉日報にも載っていましたが、通告していましたので、一般質問をさせていただきます。

件名として、現在の町の財政状況。要旨としまして、要望事項のため担当課に行くと、厳しい財政状況が伺えますが、今後、町長はどのような方向性で進んで行くのか伺いたい。

最初に財政状況を聞かせてもらって、それから町長の方向性を聞きたいと思います。

○議長（板倉正勝君） ただいまの質問に対して答弁を求めます。

財政課長、土橋博美君。

○財政課長（土橋博美君） まず、私のほうから現在の町の財政状況についてお話をさせていただきたいと思えます。

平成27年度決算から町の財政状況を見ますと、まず借金に関する数値といたしまして、実質公債費比率は8.7%、将来負担比率は71.7%となっております。これは、財政の健全化を確認するため国が定めた算定方式により算出されるものです。町の数値としては、健全化基準の範囲内ではございますが、県内の市町村の中では、借金等の割合が高い数値の団体となっております。

次に、基金に関する数値といたしまして、平成27年度末の財政調整基金の現在高でございますが、約7億3,300万円となっております。この金額も決して余裕のあるものとはいえず、類似団体との比較においても財源確保が十分とはいえない状況であります。

また、支出の自由化を判断する指標といたしまして、経常収支比率がでございます。平成27年度決算では、72.9%となっております。これは数値が比較的低い、つまりある程度自由な支出ができる状況の数値となっておりますが、平成27年度は特別土地保有税に関する収入がございましたので、単年度の特異事情によるものでございます。

今後は、少子高齢化社会が進行して、税収を初めとする経常的な収入が減少する見込みですが、その一方で、人件費、扶助費、公債費などの義務的、固定的な経費は引き続き大きな負担となってまいります。このような状況においては、今後も自由に使える予算の確保は厳しいことが想定されます。

以上でございます。

○議長（板倉正勝君） 10番、仁茂田健一君。

○10番（仁茂田健一君） わかりました。

続きまして、町長のほうで今後の方向性をお願いいたします。

今のを聞いて。

○議長（板倉正勝君） ただいまの質問に対して答弁を求めます。

町長、平野貞夫君。

○町長（平野貞夫君） 仁茂田議員には、担当課に行くと、厳しい財政状況が伺えるような言葉が返ってくるといことで、大変ご心配をいただいているところでもありますけれども、今この町の財政状況については、今、財政課長のほうから答弁させたとおりでございまして、そういった中で、私の町づくりに当たっては、やはり基本的には計画行政というものを推進していきたいというふうに思っております。

本町の上位計画であります総合計画をもとに、それぞれの分野において個別計画というものがありますので、そういう個別計画に基づきまして、優先順位を考えながら着実に事業を展開してまいりたいというふうに思っております。思っておりますけれども、問題は今、仁茂田議員のおっしゃるとおり、財源の確保、財政状況であります。

私も3年間、町の実情を見てきました。町の財政、思いのほか、相当厳しいというふうに思っています。そうした中で、今年の1月に課長会議で今後10年間の歳入歳出の積算をするよう指示をしたところでもあります。10年間の財政推計をすることによって、町も実態を明らかにしたいと、その結果によっては、事業の見直しを含めた財政の健全化を図っていかなければならないのではないかとというふうに思っております。

そういう状況の中ではありますけれども、引き続きこれまでの事務事業の執行について努力していきたいというふうに思っております。特に当面は小学校跡地や、西部工業団地計画跡地などの町有財産を活用して町の発展につなげていければというふうに思っております。そのためには民間の活力を最大限に取り入れていきたいとも思っております。

以上です。

○議長（板倉正勝君） 10番、仁茂田健一君。

○10番（仁茂田健一君） 今の話の中には、私が質問しようとした言葉がちょっと出てこなかったんですけれども、町長の所信表明の中に、財政再生計画という言葉があります。それは先ほど言った歳入歳出での10年計画、そういうことでよろしいでしょうか。

○議長（板倉正勝君） ただいまの質問に対して答弁を求めます。

町長、平野貞夫君。

○町長（平野貞夫君） そうですね。まずは、10年間の財政推計をして、その結果を見て事務事業の見直し等、財政再建をするための財政計画はつくっていくということでもありますので、まだその結果を見ないと申し上げ

られませんけれども、恐らくつくっていくようになるのではないかというふうに思っております。

以上です。

○議長（板倉正勝君） 10番、仁茂田健一君。

○10番（仁茂田健一君） その財政計画のほうはわかりましたけれども、あと今、事業5,000万円以下ですけれども、計画が遂行されていますけれども、それに対しては補助事業、補助金とかみ合わせていくんですけれども、それに対して自主財源というものが必要だと思いますけれども、その自主財源の捻出というかな、それはどうやって出してくるのか。

○議長（板倉正勝君） ただいまの質問に対して答弁を求めます。

町長、平野貞夫君。

○町長（平野貞夫君） 今の質問で、5,000万円という意味がちょっとよくわからないんですけれども。すみません。

○議長（板倉正勝君） 10番、仁茂田健一君。

○10番（仁茂田健一君） まず、野見金公園や、児童クラブ施設などで金額が5,000万円以下ぐらいの、そういう事業で、それに対してです。

○議長（板倉正勝君） ただいまの質問に対して答弁を求めます。

町長、平野貞夫君。

○町長（平野貞夫君） 野見金公園につきましては、年次計画で公園整備を図っております。桜の植樹とか、アジサイとか、いろんな周辺整備をしております。たまたまそれを完全なものにするまで待っていたのでは、なかなか集客もできないということで、いずれかは、この休憩所、トイレというものはつくる予定というふうに聞いておりました。ですので、それを前倒しで28年度に実施させていただいたところでございます。ですので、野見金公園の整備計画の一つとして、今回実施させていただいたということで捉えていただければというふうに思っております。

それから、学童保育についてですけれども、これについては、これは何でこういう学童クラブというふうかといいますと、まず子供たちの視点に立って物事を見たときに、現施設は、非常に環境が悪いと、特に今度の統合小学校から、現施設に徒歩で、自力で行ってもらうようなことになると、大変周りが暗くて、大変危険性のある場所だというふうに私は現場に行って理解をいたしました。非常に園舎も老朽化しておりまして、環境も余りよろしくない。そういうことで、やはり子供の視点に立ちますと、学校敷地内にクラブを設けて、それぞれの学年、終了時間が違いますので、終わったところから自力で通える場所、安全に徒歩で通える場所に持っていくべきではないかと、このように思った次第であります。

それで、私もずっと小学校からやすだストアの信号のところは何回も歩きました。一番右側のほうに町有地があるんです。改善センターも使えるかもわからない。だけれども、横断をして、毎日子供たちが横断することは危険性はやっぱりあるんです。そういう非常に子供の視点に立った場合、一番安全な方法、先ほど学校跡地活用という話もありましたけれども、学校跡地活用だと小学校から送らなくてはいけない。今は余り大きな声では言えないんだけれども、社協の職員が公用車で送っているんです。これはもう、本当はとんでもない話なので、もし事故があったら大変なことになる。これ誰が責任をとるかといったら、本当に難しい問題だ。

ですので、もし学校跡地を活用するのであれば、運送業者にきちんと委託しないといけない。そうするとまたコストがかかる。いろんなことを考えた中で、子供たちの視点に立つてあそこに建てると。私も学童保育、放課後児童健全育成事業、これについては学校教育の一環だと思っています。確かに管轄は違います。文部科学省と厚労省ですから、違います。でも、私はやっぱり学校教育の一環だと思っていますので、小学校ができた、学童保育ができた、これで小学校のハード面の整備が済んだというような強い思いを持ちます。いずれにいたしましても、今回の学童保育は、そういったタイミングで、子供たちの安全性を第一に考えての建設ということですので、そういった中で財源は国庫補助も使いますが、一般財源3,000万円弱を投入することになりますけれども、これだけのランニングコストを考えた場合には、十分それは数年で対応できるというような思いでありまして、それだけの一般財源を投入する価値は十分あるというふうに思っております。

以上です。

○議長（板倉正勝君） 10番、仁茂田健一君。

○10番（仁茂田健一君） 財源はそういう形で大丈夫だと、自主財源のほうはそういう形ではありますが、ただ、それが今の現在は、それでいくけれども、先々また大きい事業が、一つとすれば今ちょこっと話題にのっている公民館とか、庁舎とかの大金のかかる事業が話題にのっていますけれども、そのためにも自主財源の確保ということがまずうかがわれますけれども、そういう自主財源の確保というのは計画にありますか。

○議長（板倉正勝君） ただいまの質問に対して答弁を求めます。

町長、平野貞夫君。

○町長（平野貞夫君） 確かに大型事業が予定されております。そういった意味で、昨年度の土地保有税の、ちょっと私のほうも予想だにできなかった歳入があったわけでありまして、その財源を今回積立金ということで、基金を設置させていただく条例を提出してございますけれども、そういった中できちんと確保していきたいと。ただ、それだけでは足りないわけでありまして、やはり財政計画をきちんと立てた中で、できるだけ投資的経費に回せる金額というものを捻出していきたいというふうに思っております。それにはやはり、歳出の大幅な見直しというというのは今後迫られてくるのではないかとこのように思っておりますので、その作業はきちんとやっていきたいというふうに思っています。

以上です。

○議長（板倉正勝君） 10番、仁茂田健一君。

○10番（仁茂田健一君） わかりました。

今後の大きな事業が控えていると思いますが、現在はそのように何とか捻出して、自主財源をして、行っていくけれども、やっぱり政府の補助金をもらうということは、それに対して債がふえていくということで、今現在はいいいけれども、先々、債がどんどんふえて、今度返済との絡み合いがうまくいかなくなるとポシャになっちゃうし、それを考えて事業のほうも、また費用対効果が出る事業を推進していただきたいと思います。

以上です。ありがとうございました。

○議長（板倉正勝君） これで、10番、仁茂田健一君の一般質問は終わりました。

ここで、暫時休憩いたします。

再開につきましては、2時10分を予定しております。

(午後 1時55分)

○議長（板倉正勝君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

(午後 2時10分)

◇ 森 川 剛 典 君

○議長（板倉正勝君） 次に、5番、森川剛典君。

〔5番 森川剛典君質問席〕

○5番（森川剛典君） 5番、森川剛典です。

議長の許可を得たので、通告に従い、一般質問を件名で1件、要旨で5件伺います。

野見金公園の整備については、1年前に観光についての一般質問の中で概要や構想について伺っていますが、今回は本年度予算の事業として実施するに当たり、野見金公園休憩所（カフェ）の一般公募をするなど、運営協力を民間に求めるという町として新しい試みを行っていますので、町民の注目や話題を集めています。このことを踏まえて、事業の内容や整備の方針、方向性について伺いたいと思います。

まず、1点目の野見金公園の園路整備についてですが、新年度が迫る中、年度内に行えるのか、いつからどのような整備を始めるのかを伺います。

○議長（板倉正勝君） ただいまの質問に対して答弁を求めます。

産業振興課長、岩崎 彰君。

○産業振興課長（岩崎 彰君） それでは、私のほうからお答えをさせていただきます。

園路整備についてでございますけれども、今年度、28年度当初予算に予算は計上させていただいております。発注につきましては、昨年12月末に指名競争入札によりまして入札執行を行いまして、年度末、この3月末の完成を工期として、現在工事に着手しております。

工事の概要ですけれども、新築しております休憩所までの坂道部分、延長が65メートルです。公園広場に同じく新築中の公衆用トイレまでのアプローチとして、現在町道の舗装になっているところから延長28メートル、それぞれ2メートルの幅でインターロッキングブロック舗装にて施工する計画となっております。そのほかには、排水整備としてU字溝31メートルを布設する予定でございます。

以上です。

○議長（板倉正勝君） 5番、森川剛典君。

○5番（森川剛典君） それでは、関連で加藤議員が質問しているところもありますので、加藤議員がお聞きしなかった点や理解できなかった点について、再質問いたします。

この園路整備は、カフェだけのものに対してだと思うんですが、園内には河津桜、梅、アジサイ等もあり、園路整備は十分とは言えませんが、どのように考えているかお聞きします。

○議長（板倉正勝君） ただいまの質問に対して答弁を求めます。

産業振興課長、岩崎 彰君。

○産業振興課長（岩崎 彰君） 園路整備の考え方ということですが、公園の全体構想がありますけれど

も、その中には桜、梅、アジサイ園の中に園路の整備をするという計画がございます。園路整備を実施する上では、やはり財源の確保が必要となってきますので、その確保が課題となっているところでございます。

今現在では、公園に関する補助事業がございませんので、毎年シルバー人材センターに委託している維持管理の中で、シルバーさんの手をかりて、園路整備、できることを実施していければと考えております。

以上です。

○議長（板倉正勝君） 5番、森川剛典君。

○5番（森川剛典君） シルバーに整備していただいているということですが、基本的に、行ってみると、町道とか普通に歩く道から園内の奥までに、ちょっと入って行けそうな気がしないんですよね。順路という看板もありませんので、この辺、担当の方は春夏秋冬、季節折に見に行っているかを伺います。

○議長（板倉正勝君） ただいまの質問に対して答弁を求めます。

産業振興課長、岩崎 彰君。

○産業振興課長（岩崎 彰君） 園路の整備を少し怠っているのではないかなということかなと思いますけれども、担当者は今、シルバー人材に委託をしておりますので、例えば草刈りの作業があるというときには、現地に出向いて細かく指示をして作業をしていただいているというようなことをしております。したがって、年間に8回程度、また植木の手入れもやっておりますので、年間には数多く足を運んでいるという状況でございます。

以上です。

○議長（板倉正勝君） 5番、森川剛典君。

○5番（森川剛典君） 数多く運んでいるということなら、ぜひ来園者、来場者、草刈りを見ているんじゃないかと、この季節にはこういう花が咲いていて、ここの近くまで行ってみたいとか、そういうことを考えて、園路整備を今後考えていただきたいと思います。

やはり直近的な問題として、順路の案内看板、特に公園全体を示した看板がどこにも見当たらないんですが、この不足については今後どのようにしていくか考えておりますか。

○議長（板倉正勝君） ただいまの質問に対して答弁を求めます。

産業振興課長、岩崎 彰君。

○産業振興課長（岩崎 彰君） 確かに園路等の案内、公園自体の案内も現地にはまだ不足しているなということとは、承知はしております。今回、休憩所、トイレ等もつくりますので、限られた予算の中で、手づくりでもして材料を購入して、看板等もつくっていければというふうに考えております。

以上です。

○議長（板倉正勝君） 5番、森川剛典君。

○5番（森川剛典君） これからいろいろ発展していくと思うので、いきなり大きな看板を何百万もかけて立てるより、小さな、手づくりとおっしゃってくださいましたけれども、1つあれば、それで大体わかるんですね。ですから、そういうものをぜひつくっていただきたいと、このように思います。

それでは、2点目に入ります。

野見金公園を荒らすイノシシについて、どういう対策を考えているかお聞きします。

○議長（板倉正勝君） ただいまの質問に対して答弁を求めます。

産業振興課長、岩崎 彰君。

○産業振興課長（岩崎 彰君） 野見金公園のイノシシの被害の関係でございます。この被害には大変困惑しているところでございます。イノシシの対策については、先ほど加藤議員さんのご質問でお答えしたとおりでございます。景観や経済性など、有効な手段で効果のある対策を検討してまいりたいと考えますので、ご理解をお願いいたします。

以上です。

○議長（板倉正勝君） 5番、森川剛典君。

○5番（森川剛典君） 対策という部分では、加藤議員の回答で十分で、ほぼわかりました。再質問では、関係課の農地保全課と連携をどのようにしていくか、また強化していくかという観点で何点か聞きます。

まず1点目として、農地保全課の有害鳥獣係とどういう連携をとって対策をとるのか。この連携についてお聞きします。

○議長（板倉正勝君） ただいまの質問に対して答弁を求めます。

産業振興課長、岩崎 彰君。

○産業振興課長（岩崎 彰君） イノシシ対策の農地保全課との連携ということですが、今現在は、農地保全課は産業振興課のたまたま隣にございますので、野見金公園にイノシシの被害が発生したということが判明した時点で、即、農地保全課のほうにこういう被害があったんだよという相談、報告をさせていただいております。その中で、対策を実施していただいているところであります。

その相談によりまして、今、周囲の山林にもくくりわなをかけていただいておりますし、公園以外のところにも箱おりを設置していただいているような状況です。

以上です。

○議長（板倉正勝君） 5番、森川剛典君。

○5番（森川剛典君） 被害状況を逐一報告しながら、農地保全課のほうにお願いしているということで、農地保全課長にお聞きしますが、対策の強化なんです、公園は多くの町民や町外の方が来場される場所ですので、イノシシが出るというイメージダウンにつながると思うんですが、先ほど和田議員にも第2次の計画が平成35年まで続くということですから、そういう中で特別強化指定地域、例えば野見金周辺ですね——とか、あるいはモデル地域として、もっと強化をして取り組むということができかどうかお聞きいたします。

○議長（板倉正勝君） ただいまの質問に対して答弁を求めます。

農地保全課長、松坂和俊君。

○農地保全課長（松坂和俊君） お答えいたします。

まず、野見金公園、こういった公園などのイノシシ対策の関係なんですけれども、この周辺は自然公園ということになっておりまして、県でいう自然保護課、その中に鳥獣対策室もございます。その自然公園などを管理しているところですので、公園の総合的な対策については、先進地の対策の事例とか情報も多くあると思いますので、県の自然保護課、鳥獣対策室と協議する中で勉強して、対策に当たりたいと思っております。

また特別強化指定の関係ですけれども、現在イノシシがふえて人の生活圏まで入って来ております。特に人

が多く集まる場所への被害が本当に心配されているところなんです、この野見金公園のほかにも、この周辺で言いますと笠森観音、あと笠森霊園、また工業団地、こういったところも多く出ております。この周辺の地域は、先ほども申しました自然公園とか市原市に多く生息しているところで、圏央道の関係もありまして、要はイノシシが北上する通道的な区域にもなっていると考えられるところでございます。

こうした地域は、特に捕獲を強化していかなければならないということは重々承知しております。町の鳥獣被害防止計画、これは3年ごとに計画を立てて見直しを行っておりますので、来年29年度に見直しを予定しております。この見直しの中で強化区域の指定化も含めて、捕獲強化の計画の見直しをしていきたいと、そういったことで考えておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

以上です。

○議長（板倉正勝君） 5番、森川剛典君。

○5番（森川剛典君） イノシシが北上する通路だということですので、ぜひ通行どめを設置していただきたいと思います。本当に、この対策、公園だと入り口を規制していませんので、若い二人が24時間、夜でも行くことがあると思うんですね。以前、空がよく見えるということで、天天体方望遠鏡を持って行くような方もいましたので、24時間、要するに夜に出かける方もいるかと思いますが、そういう面を踏まえて、今後の強化をお願いしたいと思います。

非常に細かい問題を言って申しわけありませんが、何回も行っていると、ちょうど河津桜のところにイノシシのおりが置いてあるんですね。あれも、危険と書いてあってそれもよくないかなと思ったら、さらに今度は立入禁止と大きな看板を、4つ囲ってくれてあるんですよ。何か余計目立つ気もしますので、ぜひ、時期が来たらほかの場所に移動したほうがいいかなと思っております。

最後、公園の管理は産業振興課なんですが、ぜひ農地保全課のほうでも協力いただいて、イノシシが出ないようによろしくお願ひしたいと思います。

それでは、3点目に入ります。

質問の冒頭に申したとおり、カフェの運営については公募して民間に任せるという新しい試みを実施しようとしているわけで、ともすれば官営による赤字の運営を大きくしないという点で、評価はできると思います。しかし、現状の来場者では厳しいものが予想されます。町としては、運営協力をどの程度していくのか、また考えているのか伺います。

○議長（板倉正勝君） ただいまの質問に対して答弁を求めます。

産業振興課長、岩崎 彰君。

○産業振興課長（岩崎 彰君） 野見金公園の休憩所の運営について、町としてはどのような運営協力をしていくのかということでございます。

町としての運営協力についてでございますけれども、新規のお店の開店ということになります休憩所（カフェ）の営業、経営でございますけれども、来店者数の見込みが一番不確定な要素であることから、黒字経営となるかどうか大きな課題であると思います。そのようなことから、当面3年間は休憩所の使用料は無償とさせていただきますと考えているところでございます。

午前中に、加藤議員さんから、来園者の増加対策はというご質問にお答えさせていただきましたけれども、

休憩所の運営協力につながるのかなと思いますので、同じ答弁になりますけれども、観光パンフレットとか地域情報誌に掲載して周知を図る。またもう一つは、公園までの道案内となる誘導案内看板の設置などを行いまして、来園者、来店者数の増加、集客を図ることを運営協力として行いたいと考えております。

このように、町は運営協力を考えておりますけれども、経営の安定に最も大事なことは、経営者がお客様に対する思いを抱いていただいて、それを提供するメニューに魅力とかサービスを伝えていただき、お客様がおいしいと実感していただいて満足していただくと。それが野見金公園休憩所に何回も訪れていただくことにつながるのかなと思います。集客することになるのかなと思います。今後、内定していく事業者と協議する中で、そのようなことについても話し合っていきたいと思います。

以上です。

○議長（板倉正勝君） 5番、森川剛典君。

○5番（森川剛典君） 今聞いた、協力という部分で十分かどうかを少し考えていきたいと思います。

民間は赤字経営をしないために努力するのでしょうかけれども、委託という自由度の少ない中で努力の限界もあると思っています。また、これは渡邊辰五郎記念館の運営方法の考え方につながっていく、試金石にもなると思っています。できることなら、たくさんの方が来るようになって、成功してほしいという立場で再質問をしていきます。

来店者や来場者の見込みは、先ほどの回答で1,700人ほどとわかりましたが、経営が成り立つにはどのくらいの売り上げがあればやっていけると考えていますか。そういう試算はしたのでしょうか。

それから、目標来場者人数とか、1,700をアップしていくとか、次年度とか、そういうものをつくったかどうかについてお聞きします。

○議長（板倉正勝君） ただいまの質問に対して答弁を求めます。

産業振興課長、岩崎 彰君。

○産業振興課長（岩崎 彰君） それでは、ただいまのご質問、売り上げの試算とか目標とかはつくってありますかということでございます。

町としては、売り上げの試算、目標という計画はつくってはございません。今回、休憩所の運営は、民間の活力、経営力をおかりして行っていただくということが一番よいと考えまして公募したわけでございますけれども、事業者自らが売り上げの試算とか目標を持って事業展開をしていくということが、今回公募して意欲のある事業者を募集したという次第でございます。

そういうことで、予定事業者は、事業計画の中で年間の収支計画を立てて営業に臨んでいただくということになります。

以上です。

○議長（板倉正勝君） 5番、森川剛典君。

○5番（森川剛典君） 表に、目標別に掲げるつもりはなくてもいいと思うんですね。ただ考えたときに、このカフェをやっていくには1,700人程度、あるいはコーヒー1杯500円で売れば、1,700人だったら85万、1,000円で170万円だと。これでやっていけるかなと、そういう頭の中で考えていることを、そういうことで5だと。それからふやしていく要素があるんだったらとか、そういうコスト意識を持っていただきたいということで質

問をしております。

次の質問として、町では観光パンフレットに掲載する、さらに地域情報誌に投稿し掲載など、ある程度の宣伝を考えているようですが、場合によっては直接的に近い支援も必要ではないかと思っています。例えば最初の1,000人までコーヒー無料券付きのチラシ配布とか、これ30万、40万円といきますね。あるいは営業日数が週3日程度と短いですから、週末ということですからね。自販機などこういうものを置いて、収益の足にさせていただくとか、そういうことは、間接的な応援をできるかどうかについて伺います。

○議長（板倉正勝君） 　ただいまの質問に対して答弁を求めます。

産業振興課長、岩崎 彰君。

○産業振興課長（岩崎 彰君） 　休憩所を運営する方に、直接的な支援をどう考えているかということでございますけれども、今回、民間の事業者の力をかりてということで運営をしていただきますので、私の考えとすれば、しばらくは事業者の努力、運営状況を見させていただければなというふうに考えてはおります。また、その後、直接支援が必要かなと判断したときには、また検討したいと考えております。

もう一つの、2点目の自動販売機の設置でございますけれども、今回営業するのは、喫茶店でございます。週末の営業といっても喫茶店でございますから、自動販売機が店舗の近くにありますが、営業しているときにそちらを買って、お店の売り上げにも影響するのかなということも考えられますので、その設置についてはまた経営する事業者と相談はしてみたいと思っております。

以上です。

○議長（板倉正勝君） 　5番、森川剛典君。

○5番（森川剛典君） 　考え方なんです、これはお客様第一に少し考えております。自動販売機が24時間、売店というか、営業しているときにはスイッチ切ったっていいと思うんですよ。私が考えているのは、来たときにそこに何もないと。じゃ、こんなに営業期間が短いんだから、そのときは自動販売機で買ってくださいと、そういう意味です。

それには、後ろから随分声が聞えますけれども、その販売期間中はお店の方が切っていてもいいと思うんですよ。そういうこともできると、いろんな角度から検討していくことが大事だと思っております。

それでは、長南町野見金休憩所に関して、最後の質問をしたいと思います。

公的な名称的にはこういう名前、何か長南町野見金休憩所と、大変味気ないんですが、説明会に参加された方から言われたのは、最初にカフェありきの運営で、これについて自由度がないと。事業者が休憩所の使用について新たな工夫やアイデアは生かせないかと。こういうところについて、どのように考えているか伺います。

○議長（板倉正勝君） 　ただいまの質問に対して答弁を求めます。

産業振興課長、岩崎 彰君。

○産業振興課長（岩崎 彰君） 　今回のこの施設につきましては、休憩所で飲食を提供できる施設ということで、今現在、建設しているところでございます。基本は、飲食ができるということが必要だと思いますけれども、飲食と併用した形で催しを行うとか、そういうことは可能かなというふうに考えております。

以上です。

○議長（板倉正勝君） 　5番、森川剛典君。

○5番（森川剛典君） ぜひ、経営者が自由度を広げて多くのお客さんにアピールできるような、そういうものについて協力していただければと思っております。

それでは、要旨の4点目に入ります。

野見金公園整備には、先ほどイノシシだと農地保全課、林道、道路の整備だと建設環境課、園内整備、トイレの清掃だとシルバーとか、いろいろな関係各課の協力が必要だと思いますが、どのような連携をして取り組んでいくのか、また野見金公園の宣伝マップをつくる場合や発展を考えた場合に、全体を見る目として、今後は課の枠を超えたプロジェクトチームの結成も必要かと思いますが、その点についてはどうお考えですか。

○議長（板倉正勝君） ただいまの質問に対して答弁を求めます。

産業振興課長、岩崎 彰君。

○産業振興課長（岩崎 彰君） ただいまのご質問、プロジェクトチームの結成もというご質問でございます。

答弁させていただきますけれども、関係各課との連携については、先ほども申しましたが、農地保全課には有害鳥獣の対策について公園の状況報告とか相談、駆除の実施の依頼をしております。また道路の維持管理、周辺の道路につきましても、建設環境課と横の連絡をとりまして、維持管理作業を依頼しているところでございます。園内の維持管理につきましては、町とシルバー人材センターの間で委託契約を締結して、担当者間において打ち合わせを行って、年間計画を立てた中で作業の実施をしております。このように、連携をしております。

公園に関して、全体を見る目として課の枠を超えたプロジェクトチームの結成という考えはというご質問でございますけれども、公園の担当課は産業振興課でございますので、今までのとおり主体となりまして、関係各課には相談を密にさせていただいて、適正な維持管理、環境の整備に努めて、公園の宣伝また魅力アップを図っていきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

○議長（板倉正勝君） 5番、森川剛典君。

○5番（森川剛典君） 今回の注目は、カフェに集まっていますが、目的は、カフェをつくるだけではなくて、活性化のために観光拠点の一つにしていくということが主だと思います。そういう中で、長南町は、各課別の個々の仕事の対応という縦割りが目立ちます。横の連携や、推進責任者がいる野見金公園プロジェクトチームが必要ではないかと思っております。

渡邊辰五郎記念館の試金石と申しましたが、ここで得られるノウハウは貴重なものとなると思っております。生涯学習課もマップの作成や宣伝というノウハウに一枚かんだほうがよいと思っています。

そんな例ですが、そのプロジェクトにつながるかどうかはわかりませんが、例えば電話が一本入ってきます。「〇〇観光ですが、太平洋の見える長南町野見金公園休憩所に大型バス2台で行きたいのですが、トイレとか、お買い物とかできますか」という電話が総務課に入った場合、どういふご案内や対応を考えていますか。

○議長（板倉正勝君） ただいまの質問に対して答弁を求めます。

産業振興課長、岩崎 彰君。

○産業振興課長（岩崎 彰君） ただいまのご質問、野見金公園の問い合わせが総務課に入ったときにどう対応をとりますかということでございます。

代表電話は総務課になっておりますので、野見金の問い合わせ、総務課に電話が入るようになると思います。

けれども、どうしても縦割りの行政になっておりますので、先ほど森川議員さんからあったようにプロジェクトチームがあるわけではございませんので、総務課に入りましたら、今までどおり、電話は担当課の産業振興課に回していただいて対応させていただくことになります。野見金公園の休憩所の営業日とか、公園の花の開花状況なども、当然正確に伝える必要がございますので、常に産業振興課は現地の状況を把握しておいて、対応したいと思います。

以上です。

○議長（板倉正勝君） 5番、森川剛典君。

○5番（森川剛典君） ここで話しているのは、そういう対応も含めてですけれども、そういうマニュアルも必要ですが、この中で大型バス2台とわざと入れたのは、あそこに大型バス2台が果たしてとまれるのかなと。そうした場合に、とまらない、一時的だったらとめる場所があるかもしれませんとか、そんな話になると思う。だからそういう話は、今度は道路だとか、ほかのところでも把握しておくとか非常にいいかなと、そういう意味での今後のプロジェクトのことも考えていただきたいと思います。

要望という形になりますが、これは、例なんです、くらもち滝の里に、クラブツーリズムというところからオファーがありました。そういう、野見金もあるんでしょうけれども、そういう拠点の一つになっていただけますかと。当事者は、それが来たら、メールだけ送ったそうですね、写真とか。ああいう大きな観光会社にな成約するには、もうトイレだ何だ、こういう買い物があるという、どんどん条件を提示して、歓迎しますよと。ただ、写真を送ってくれと言ったから写真を送っただけで、それから返事はないと。だからやはり、野見金公園も観光化していくのに、やはり相手を連れてくる以上、観光ですから、やはりしっかりした対応、駐車場ぐらいは大型1台でも2台でもいいからとめられる場所、そういうものをぜひ考えていただきたいと。ちょっと今のところ、観光の拠点づくりにしては半端な計画だと感じていますので、今後の位置づけで、よろしくお願いしたいと思います。

ただ、一つ誤解だけしていただきたくないのは、公園についてお金をかけるということと言っているわけではないですからね。そういうものを考えて整備していけば、道路を広げるだけでも1台2台とめられる場合もありますので、そういう知恵とやる気を出していただきたいということで、お願いをいたしたいと思います。

それでは最後の5点目に入ります。

現在、ユートピア笠森がなくなってから、蔵持の内田川と呼ばれる地域は、道路整備状況が悪くなり、道路脇のツツジも、高齢者の多い地元管理では行き届かず、道路にはみ出す状況が出てきています。田畑も山林も、イノシシが出て荒れ放題の状態で、観光の一環や拠点として位置づけるなら、周辺環境ももう少し整備を考えたらどうかと思います。また、周辺地域には、蔵持ダムやブルーベリー園、野営場もあり、そういう拠点のつながりや連携も必要と考えています。そういう観点から、野見金公園周辺の整備と周辺地域との連携や、周辺地域の整備についてどう考えているか伺います。

○議長（板倉正勝君） ただいまの質問に対して答弁を求めます。

産業振興課長、岩崎 彰君。

○産業振興課長（岩崎 彰君） ただいまのご質問、お答えいたします。

野見金公園周辺の環境整備の考えはということでございますけれども、周辺の道路につきましては、維持管

理といたしまして、昨年度になりますが、岩撫地区から野見金までの坂道がございますけれども、その道路脇の樹木が道路に覆いかぶさりまして倒木などの危険がありますことから、伐採を行っております。今は、明るく見通しのいい状況となっております。

また昨年の秋になりますが、水沼地区から野見金までの道路についても、のり面のモルタル吹きつけの改修工事を実施していただいているところです。

そのほかにも、維持管理作業として、町の美化作業員さんによります流木や竹の伐採、また路肩の清掃などの作業も行っているところでございます。今後も、町の限られた予算の範囲で適切な管理に努めていただくように、相談をさせていただくところでございます。

周辺地域との連携についてでございますけれども、野見金公園周辺には、芝原人形館、その近くにはまた美術館もあります。また、笠森観音から首都圏自然歩道が山の尾根を走っております。また、町営の野営場、キャンプ場の施設などもあります。またその来場者、利用者に野見金公園休憩所の開店の周知を図りまして、利用を促したいと考えております。その中でも、町営の野営場、キャンプ場については、運営を町から委託しておりますヤックス自然学校に、野見金休憩所及び広場を活用した事業計画を考案していただくということも要望したいと考えております。

以上です。

○議長（板倉正勝君） 5番、森川剛典君。

○5番（森川剛典君） 今ご回答いただいた中で、整備ということで考えた場合に、既存のやっている施設が対象になっていたと思うんですが、隣にやはり大きな旧ユートピア笠森があります。さくらまつりなどでは駐車場の一部をお借りしていると思います。展望タワーや、その下にある遊具広場、全面賃貸、買い上げは無理としても、やはり今後の中で協力を仰いでいくべきだと思うんですが、そういう連携というか交渉というか、折衝というのはどんなふうに持たれていますか、お聞きいたします。

○議長（板倉正勝君） ただいまの質問に対して答弁を求めます。

産業振興課長、岩崎 彰君。

○産業振興課長（岩崎 彰君） 今、ユートピア笠森、閉館をしておりますけれども、その連携はということでございますけれども、特にユートピアとの連携は考えてはおりませんけれども、ユートピア笠森も、建物、土地、全てを売却したいという考えでいるということで聞いておりますけれども、なかなか買い手がつかないのかなというふうには感じております。そういうことで、今のところは連携ということは考えてはおりません。

以上です。

○議長（板倉正勝君） 5番、森川剛典君。

○5番（森川剛典君） 今後の課題として、一番身近にあって、すぐ隣にあって、本当に駐車場の確保には一番いいかなと思っています。そういう立場で、今後いろいろと折衝とか努力をしてほしいと考えております。

そういうことで、周辺地域には可能性を秘めた観光資源が既にありますから、別の意味で、周辺整備を踏まえた野見金公園を、来場者10万人プロジェクトなど考えて、目標を持ってぜひ取り組んでいただきたい。ということであれば、人の流れが戻ってきます。これは一つの、私、希望だと思っています。野見金公園が活性化することによって交流人口が流れてきて、周辺地域にも日が当たってくると。地域の底上げにつながると思

いますので、ぜひよろしくお願いします。

そこで、いきなり周辺地域を開発や整備してほしいと言っても無理がありますが、観光の基本と言える道路とか道路脇の景観整備は何とかならないかと考えております。例えば道路に土が堆積している、それをイノシシがほじった跡がある。これは取ればいいことなので、竹が河川や道路にはみ出している、こういうことについて何とかならないか、建設環境課長のほうにちょっとお聞きしたいと思います。

○議長（板倉正勝君） ただいまの質問に対して答弁を求めます。

建設環境課長、唐鎌伸康君。

○建設環境課長（唐鎌伸康君） 今のご質問は、道路の脇の堆積した土砂及び竹ですね。これにつきましては、うちのほうで管轄、所管しております美化作業員さん、こちらのほうに作業のほうは依頼をして実施するところでございます。

また本年度につきましては、ユートピア笠森、営業のほうを中止しておりますけれども、歩道の一部安全柵が老朽化しておりまして、その辺の撤去作業も本年度予定して実施したところでございます。

公園のオープンに向けまして、道路、安全で皆さんが気持ちよく通れるように維持管理のほうを努めていきたいと思っております。

以上です。

○議長（板倉正勝君） 5番、森川剛典君。

○5番（森川剛典君） 要は、大事なことは、来場する方が通って、ここはすばらしいところだと、そう思っていていただくことなので、そういった観点からひとつ、よく見ていただきたいと思います。

それでは最後に、要望的なことを話して終わりにしたいと思います。

以前、二、三年前ですけれども、協働交流サロンが蔵持地域のバラ園でイベントをやったときに、学生や若者が地域マップをつくってくれました。その地域マップをつくりましたら、そのの、回る場所の先になっている草取仁王尊とか、蛇谷とか、そういう地域を自主的に掃除してくれました。このことは、ぐるっと長南花めぐり、こういうところでも、寺社やパワースポットについて地域の人の自主的清掃現象が起きました。マップの中の点が、長南町の観光名所なんだと、そういうことになる、自分の地域をよく見せたいという思いがやはりいろんなところで線としてつながっていきますので、今後は周辺地域の人との連携、そういうことも踏まえて、そのことを頭に入れながら整備をしていただけると、町のためにこういう整備もしてくれているんだと、そういう感情にもつながっていくと思いますので、ぜひそういう思いも伝えていただきたいと思います。

以上で私の一般質問を終わります。

○議長（板倉正勝君） これで、5番、森川剛典君の一般質問は終わりました。

◇ 岩 瀬 康 陽 君

○議長（板倉正勝君） 次に、1番、岩瀬康陽君。

〔1番 岩瀬康陽君質問席〕

○1番（岩瀬康陽君） 1番議員の岩瀬です。

執行部の方におかれましては、早朝からご答弁で緊張と大変お疲れのことだと思いますけれども、私、最後

の質問ですので、簡潔な、そしてまた私の意に沿うような答弁をまたひとつお願いしたいと思います。

それでは、議長のお許しをいただきましたので、通告どおり質問させていただきます。

それではまず、学習と子育て支援について伺います。

保護者の皆さん、誰でも自分たちの子供、優秀で、よい学校に行き、そして将来は豊かな生活を送れること。これを皆さん望んでおられると思います。また、時代は、それと教育関係者、こういう人たちは、子供たちが生まれた環境、それから家庭の経済状況、そういうことによりまして教育格差が生じないよう、教育の機会均等、これを図っていく必要が求められてきております。そして、この機会均等を得ることによって、子供たちは勉強に一生懸命に取り組み、そしてまた自分の将来に夢を抱いて成長していく。そういうことがまた可能になります。しかし実際には、経済的に余裕のある家庭、また教育に熱心な家庭、そういう子供たちは、学校のいわゆる公的な教育だけではなくて、前から私質問しておりますけれども、要は民間の学習塾、そういうものに通って学力の向上を進めております。

本町においても、高校受験、そういうもののために多くの子供たちが学習塾へ通っていると思います。また今は、本町を含めた全ての自治体で、子供の教育格差、これが将来の負の連鎖につながるということで大きな国を挙げての問題になっております。そして一部の自治体では、民間組織がこの教育格差の是正、縮小を目指して学習支援にまた取り組んでおります。本町におきましても、この子供たちの教育格差、これを是正して、子供たちの学力の向上、それから保護者の教育の負担軽減、これを図っていくために、子育てと学習支援につながる新たな施策の実施に私は取り組むべきだと思います。

そこで伺います。この問題は、私が平成27年第4回定例会で一般質問をしております。そのときに、統合小学校開校に合わせて、当時は希望する小学生、児童に、放課後の補習授業を実施する、そういう計画があると答弁をいただいております。そして4月から統合小学校、開校いたします。職員の皆様におかれましても、統合小学校の建設、また開校に合わせた準備、多分ご多忙だったと思います。そういう中で、新年度予算をちょっと私、見ましたら、予算が盛り込まれておりました。それでお聞きしたいのですけれども、この事業、いつごろから具体的に実施するのか。また講師、指導員の方でしょうけれども、この確保また待遇はどのように考えているのか、まず聞かせてください。

○議長（板倉正勝君） ただいまの質問に対して答弁を求めます。

学校教育課長、永野真仁君。

○学校教育課長（永野真仁君） ただいまの岩瀬議員さんのご質問でございますが、まず初めに、放課後の補習授業についてということで、いつからということが含まれていたと思うんですが、こちらの放課後の補習授業につきましては、前回、確かに答弁をさせていただきましたのは、平成29年、今年の4月、統合小学校開校に合わせて週1日か2日程度から始められればということで、定着を図ってまいりたいというふうに答弁をさせていただいております。

結論から申し上げますと、実施はいたします。実施はいたしますが、具体的なスタート時期につきましては、4月当初ということではなく、大変申しわけないんですが、先延ばしをさせていただきたいというふうに考えております。

理由といたしましては、スクールバスの導入によりまして、運行方法がだんだん固まり、日課時刻表のほう

ができ、児童の学校生活について時程等詳細が決まり始める中で、補習授業の時間確保というのが大変困難であるということが明らかになってまいりました。開校当初の混乱についても心配がありますし、決して慌ててスタートを切る必要はないのではないかというような案も出ております。いつということでしたが、現場のほうの様子も確認をとりながら、なるべく早い段階で実施ということで考えております。

また、後半部分、講師の確保、それから待遇についてということでございました。こちらについても以前答弁をさせていただいておりますが、教職経験のある方、こちらにお願いをするという方向性は変わりございません。待遇につきましては、先ほど予算の中にということお言葉もございましたが、全くの無償というわけにもいきませんので、交通費程度となりますが、支給できるように予算計上をさせていただいております。

以上です。

○議長（板倉正勝君） 1 番、岩瀬康陽君。

○1 番（岩瀬康陽君） 確かにスクールバスの関係がありますから、学校のカリキュラムのほかに、これは学校の授業ではなくて恐らく教育委員会の事業になると思いますので、その調整が難しいと思いますので、多少時期は遅れるもやむを得ないかとは思いますが。

それと講師の件なんですけれども、教職員のOBの方ということで、ボランティアで交通費ぐらいという話なんですけれども、この教職員のOBの方というのは、ある程度、目星はつけているんですか。それとももちろん、年度が始まりますので、依頼はされているんですか。その辺についてお聞かせください。

○議長（板倉正勝君） ただいまの質問に対して答弁を求めます。

教育長、小高憲二君。

○教育長（小高憲二君） 塾の指導を正規の教職OB等に依頼するというようなことで、基本的には関係の方々に何人か当たっていただいております。詳細については今後詰めるということで話をしておりますが、人数的にもある程度、一応やっていた方向で確保しております。

○議長（板倉正勝君） 1 番、岩瀬康陽君。

○1 番（岩瀬康陽君） わかりました。それでは確認しますけれども、この補習授業は、希望する児童なのか、スクールバスの関係もありますので、それとも全児童を、1 年生から 6 年生まで、それを対象に行うことを考えているのかお聞かせください。

○議長（板倉正勝君） ただいまの質問に対して答弁を求めます。

学校教育課長、永野真仁君。

○学校教育課長（永野真仁君） ただいまの質問でございますが、こちらについても、以前答弁をさせていただきましたとおり、希望者というふうに考えております。これは教育課程外になりますので、あくまでも保護者の同意のもと、放課後残すという形をとりますので、希望者という部分は変わらないと思います。

以上です。

○議長（板倉正勝君） 1 番、岩瀬康陽君。

○1 番（岩瀬康陽君） 理解しました。その場合、希望者ということになると、確かにスクールバスの運行、これが非常に難しいのかなと思います。当然、帰るときに、時間割によるんでしょうけれども、2 便か 3 便か

よっと私よく把握していませんけれども、当然、希望者になってきますとその子供たちが時間が変わってきますので、その子供たちが自力で帰るのかという話になってくると思うんですよ。その辺はどういうふうにお考えなんですか。

○議長（板倉正勝君） ただいまの質問に対して答弁を求めます。

学校教育課長、永野真仁君。

○学校教育課長（永野真仁君） 今のご質問ですが、さすがに親のほうの送り迎えということは考えておりません。ですので、まだ詳細について詰めてございませんが、例えば5時間目で帰すようなときに、いわば6校時の時間帯を使って補習授業を行い、そして6校時終了のときの便のバスで帰すというような形がとればということ考えております。

以上です。

○議長（板倉正勝君） 1番、岩瀬康陽君。

○1番（岩瀬康陽君） そうするしかないのかと思います。

それともう1点聞きたいのは、この補習授業、科目を特化して行うのか、当然、希望する小学生でしょうか、それとも全科目、そういうものを対象にして取り組むのか、その辺のことについてお伺いしたいんですが。それとあとは、希望する児童ですので、保護者のほうに、当然、説明とか何かしなければいけないと思うんですけども、その辺は具体的にどういうふうな方法でやろうと考えているんですか。お聞かせください。

○議長（板倉正勝君） ただいまの質問に対して答弁を求めます。

学校教育課長、永野真仁君。

○学校教育課長（永野真仁君） こちらについてですが、保護者のほうに当然希望をとって、希望者に施すということで先ほど答弁させていただいたわけですので、教科につきましても、恐らく保護者の側といいますか、子供側にもニーズがあると思うんです。そちらについては、調べる中で、また現場の先生方の意見を取り入れる中で、決定を図りたいというふうに考えます。

以上です。

○議長（板倉正勝君） 1番、岩瀬康陽君。

○1番（岩瀬康陽君） それでは、本町で初めて放課後補習授業に取り組んでいるということですので、今の答弁を聞いて、なるべく児童が、底上げと言ってはおかしいんですけども、ボトルネックを解消されて、学力が向上するよう、ぜひ早急に授業ができるような体制を整えてください。

それでは、次の質問に移らせていただきます。

現在、文科省、国は、地域の方々の参画によりまして、子供たちとともに学習、スポーツ、それから文化活動等々、地域の住民との交流活動等の機会を提供する取り組み、いわゆる放課後子供教室、これを推進しております。本町におきましても、退職教員、それから企業のOB、そして大学生から文化芸術団体、そういう方々が多数お住まいのことと思われまます。それで、この子供たちが地域社会の中で心豊か、健やかに育まれるよう、これらの地域の方々の協力を得て、この子供教室に積極的に取り組んでいくべきではないかと私は思います。

現在、調べましたら、県内では千葉市と、たしか松戸ですか、それを除いた29団体がこの教室に取り組んで

おります。この教室の開催によりまして、ほかの実施している地域では、子供たちと地域の方々の交流が深まる、子供たちがそして地元に着愛を持、そして将来的には地元、町の担い手になっていくと。そして町の活性化につながると、そういうふうな効果も期待できるということでございます。

そこで伺いますけれども、この放課後子供教室をぜひ実施すべきと考えていますけれども、お考えをちょっとお聞かせください。

○議長（板倉正勝君） 　ただいまの質問に対して答弁を求めます。

学校教育課長、永野真仁君。

○学校教育課長（永野真仁君） 　放課後子供教室ということでございますが、これまでも、文科省の側からさまざまな試案が出てまいりまして、かなり昔のことになりますけれども、スポーツに特化したもので、文科省のほうから地域住民の自主的な運営を目指す総合型地域スポーツクラブというようなものを推進せよということとで出されたことがございました。しかしながら、地域の受け皿の部分が整わず、手っ取り早く教職員が指導者を任されることがありました。地域において教職員の知識や経験といったものが生かされることは大変よいことであると考えerわけですが、学校の部活動の延長になったり、結局のところは指導者の異動等で自然消滅といったような事例も少なくありませんでした。

今回の放課後子供教室も、確かに実現ができれば、子供たちにとってすばらしい取り組みになると思いました。現段階で、こちらの受け入れ体制というのが整わないために、すぐに実施というのは非常に難しいのではないかとこのように考えています。さまざま落ちついた段階で、本町において受け入れ態勢を整えるだけの体力があるのか、しっかりと見きわめまして、また先進事例に学びつつも検証を進める必要があるというふうに考えます。

以上でございます。

○議長（板倉正勝君） 　1番、岩瀬康陽君。

○1番（岩瀬康陽君） 　もう少し積極的に考えてもいいんじゃないですか。補習授業等、確かに新しいものを実施していくというのは、さまざまな課題、問題を解決していかなければいけません。それには大変な時間がかかります。でも、やっぱり何かを始めなきゃよくはないんですよね。

先ほども放課後児童クラブの話が出ていました。学習できないかという話もございました。今、国が、文科省と厚労省と一緒に26年に通達を出しています。その中で、放課後子ども総合プランですか、そういうのをつくっております。その中で、これから国は、一体型、要は児童クラブと子供教室一体型で整備を進めていきたいと思いますよと、そういうふうな通達をしています。今回、幸いに統合小学校の敷地の中に、子供の安心・安全が一番大事だということで、児童クラブ施設が整備されます。いい機会なんですよ。ぜひ、これに取り組みませんか。時間がかかるかもしれませんが、やっぱりやっていかなければ始まらないです。何て言っても、学習も一緒にできるわけですよ。児童クラブの子供たちが、この統合の子供教室のほうに移動してきて、そこで学習もできるんです。スポーツもできる。また帰ってくることもできるんです。同じ敷地の中だから。なぜそういうことの利点を理解できないんですかね。前向きに取り組むような話をしていただければ、私もこんなに再質問しなくていいんですけれども。これは悪いことだと思いますか。非常に支障があるんですかね。その辺をお聞かせください。

○議長（板倉正勝君） ただいまの質問に対して答弁を求めます。

学校教育課長、永野真仁君。

○学校教育課長（永野真仁君） ただいまのご意見でございますが、決して利点を理解できないということではございません。国の目指す方向があり、また岩瀬議員さんの意にそぐわない方向で、決して答弁をさせていただいているわけではありませんが、現段階で非常に困難であるということで申し上げたまでです。今後、全くそのことを考えないとかいうことで答弁をしているわけではございません。大変この利点については理解ができておりますので、本当に先の話にはなりますが、検証の上、そういった方向性も考えてまいりたいというふうに思います。

以上でございます。

○議長（板倉正勝君） 1 番、岩瀬康陽君。

○1 番（岩瀬康陽君） それでは、早急な検証をお願いしたい。なぜなら、子供が学習していくというのは毎日毎日なんですよ。1 年 2 年待っていたらどんどん遅れてしまうんですね。我々大人はもう成長しています。ただ我々も、これから死ぬまでずっと勉強だと思っています。だからやっぱり、やるんだったら早急にやる。このスピード感を持ってやっていかなければ、やっぱり教育は成り立ちませんよ。と私は思います。だから、早急に検証して取り組んでください。

それでは、次の質問に入ります。

現在国は、先ほどの子供教室と同じように、学校をプラットフォームとして、地域の退職教員また大学生の協力によりまして、先ほどと同じなんですけれども、経済的な理由で、家庭の事情等、学習が困難だったり学習習慣が十分身についていない中学生等を対象といたしまして、無料の地域未来塾、こういうものに2015年度から取り組んでおります。この17年の予算では、全国に約3,007カ所までふやす、そういうことがまた予算書の中に盛り込まれております。

昨年、県内では浦安、それから松戸、そして酒々井町、この3自治体で取り組んでおります。一応、無料の学習塾ですので、非常に経済的に余裕のない家庭、非常に有効ではないかと思えます。この点について、この地域未来塾事業、これをどう評価するのか、教育長のお考えをちょっとお聞かせください。

○議長（板倉正勝君） ただいまの質問に対して答弁を求めます。

教育長、小高憲二君。

○教育長（小高憲二君） 未来塾事業の評価ということでございますが、授業中の勉強がわからずに遅れがちな子供、あるいは学習習慣が身についていない子供たちに、何とかして一生懸命勉強してほしいと教師は常に願っておるところでございます。ご紹介の地域未来塾事業につきましても、家庭での学習が困難であったり、また学習習慣が十分身についていない中学生・高校生を対象に、地域住民の協力により学習習慣の確立、あるいは基礎学力の定着を目的にするものと伺っており、目的については心を同じくできるものだというふうに考えます。

ただ、中学校の中に学習塾を開設するに当たっては、そこに通う子供の心情、あるいはその子を取り巻く子供たちの状況を最優先の検討課題とする必要があると考えております。放課後、個別指導のために担任が子供を残すことについても忌避されることもある現在、中学校の中での開設、運用については慎重が必要なのか

なというふうにも考えます。

以上でございます。

○議長（板倉正勝君） 1 番、岩瀬康陽君。

○1 番（岩瀬康陽君） 現場をよくご存じの教育長の考え方もよくわかりました。それはそっちに置いておきまして、次の質問に入ります。

文科省が2015年に行った調査、学習塾に通っている子供が中学校3年生で約6割だそうです。本町におきましても、確認したところ、そういった調査は行っていないということです。全国平均同様に恐らく6割ぐらいの子供が通っていると思います。しかし本町は、公共交通の利便性が非常に低い。そしてまた学習塾も少ない。多くの保護者は、全国の家と同じように高額な授業料を払うとともに、仕事などを犠牲にして近隣市まで送迎しています。送迎がかなりの負担になっていると思います。またくどうですけれども、今、日本は、子供の約6人に1人が貧困の状態にあると言われています。本町も同じような状態にあるかどうか、はっきりとはわかりませんが、経済的な理由で学習塾に通うことを諦めている、そういう子供、保護者さんもいるのではないかと私は思います。

そこで、くどうですけれども、また伺います。この経済的な事情で学習塾へ通えない生徒の学習支援、そして送迎する保護者の負担の軽減、こういう面からも、希望する生徒を対象にして、この地域未来塾に取り組んでいくべきではないでしょうか。お考えをお聞かせください。

○議長（板倉正勝君） ただいまの質問に対して答弁を求めます。

教育長、小高憲二君。

○教育長（小高憲二君） 未来塾事業の取り組みということについてでございますが、その必要性については否定するものではございませんが、子供の学習のつまずきについては担任が一番よく知っておりますし、学力向上に対しましても、学校全体の課題として取り組んでおります。担任、教科担任、学習支援員等が協力して、現在、放課後等の時間を利用して個別指導を充実させておる状況でございます。今年度は、特に学習支援員に専門性の高い外部指導者を採用して、その効果を期待しておるところでございますが、小規模校のメリットを踏まえた指導というようなことでの個別指導が現体制ではなされているという認識の中で、今しばらくはこの体制の充実というようなものを支援していければなというふうに考えておるところでございます。

以上でございます。

○議長（板倉正勝君） 1 番、岩瀬康陽君。

○1 番（岩瀬康陽君） その辺は十分理解できます。私が言いたいのは、学習支援と子育て支援なんですよ。生徒さんもそれでいいんですけれども、保護者が実際に、近隣の市まで時間を割いて送迎している。そういう面を、例えば改善していくって、これ非常に重要なことだと思います。今、日本の国って、これから女性の社会進出、これを盛んに進めていっているんじゃないですか。そういう中で、やはり子供を送迎しているから就労できないという方もいるかもしれない。これ非常にやはり無駄だ、残念だと思うんです。

やはり、ここでちょっとくどくど言いたくないんですけれども、先進国の中で出生率の高い国というのは、これフランスとかスウェーデンとかなんですけれども、現金給付と現物給付というのがあって、保育サービスなんていうのはまさに現物給付なんですよ。現物給付に取り組んでいる国ほど出生率が高いんですよ、

データでは。やはり本町は、先駆けて本当に、子育て支援の中でもいろいろなサービスをやっています。高校生までの医療費無償化だとか、保育料の減免だとか。やはりそういう面はさらに充実しているんですから、実際に今度は現物給付のほうの支援に取り組んでいけば、もっと本町は子育て支援が充実するんじゃないですかね。そういう面からでも、ぜひ取り組んでいただきたいと思うんです。

なぜならこれ、国・県で3分の1ずつ補助が出ますよ。それから、これ私が前から言っていますけれども、例えば民間塾に委託をすることも補助事業でもできるんですよ。そういう面から言って、あともう一つ言いたいのは、東京家政大学と連携協定結んでいますよね。そういう中で学生さんに、例えば夏休みだとか、そういうときにやっていただける、生の大学生と勉強できる。それからひょっとしたら教授の授業も受けられるかもしれません。そういう面からでも、ぜひ取り組んでいっていただきたい、やっていただきたい。答弁をお願いします。

○議長（板倉正勝君） ただいまの質問に対して答弁を求めます。

教育長、小高憲二君。

○教育長（小高憲二君） 本町が一貫教育を進めるに当たって併設の小学校をつくり、そしてそこに就学前の子供教室をつくるというようなことで、今あそこを中心にして町の教育施設を私は考えていく必要があるんだろうというふうに思っています。そしてここで考えなくてはいけないのは、やはり子供の育ちの一貫性というようなことだというふうに私は考えております。だから、放課後の子供塾も含めまして、あそこを中心にして子供の居場所づくりを踏まえた時間を設ける、あるいはそういうシステムをつくる必要というようなものを、私はちょっと考えておるようなところでございます。

その運営に当たっては、議員さんのおっしゃるような外部指導者の力、あるいは専門家の塾等の力をかりる中で運用はしていければなというふうに考えているところでございます。いずれにしても、私は、それをコミュニティー・スクール的な要素を将来的には持って、地域の人の力をかりながら子供の育ちの一貫性というものを同時に保障できるのかと、こういう体制の中に、今おっしゃったような組織は入れていくのがいいのかなというふうに考えております。ちょっと時期とか、まだ段階的に、コミュニティー・スクールについては今、考えておるところでございまして、時期等については明言できませんが、内容、組織を、今、考えていくつもりではおります。

○議長（板倉正勝君） 1番、岩瀬康陽君。

○1番（岩瀬康陽君） コミュニティー・スクールという言葉が出てきましたけれども、とにかく物事を始めるとするのは、先ほども言っていますけれども、非常に大変なんです。特に行政マンにとっては、今までの慣習とかありますので、新しいものにはなるべく触りたくないというのが多分本音だと思います。でも、行政というのは最大のサービスと言われています。やはり町民の目線に立って、住民サービスを第一に考えて、せっかく統合小学校がこれから始まって、町民と生徒が大いに期待を寄せていると思います。これから町が活性化するんだと、大いに期待していると思います。ぜひ、やはりこれから一步一步、前向きにチャレンジしていく。絶対、後進に下らない、そういう面で教育に取り組んでください。

以上で、要望して質問を終わりにします。

○議長（板倉正勝君） これで、1番、岩瀬康陽君の一般質問は終わりました。

◎散会の宣告

○議長（板倉正勝君） 以上で本日の日程は全部終了いたしました。

お諮りします。

明日３日から５日は、議案調査のため休会としたいと思います。

ご異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（板倉正勝君） 異議なしと認めます。

明日３日から５日は、議案調査のため休会とすることに決定いたしました。

６日は午前１０時から会議を開きます。

本日はこれで散会とします。

ご苦労さまでした。

（午後 ３時２４分）